令和4年度年報

特定医療法人社団三光会
誠愛リハビリテーション病院

筑紫野市にある九州最古の寺、武蔵寺。
その境内にある樹齢 1,300 年の藤の花です。
天拝山に登る時は、必ずお参りしてから登っています。
ここに何年も通って、ようやく満開の藤に出会うことが出来ました。

リハビリテーション部　赤松泰典

目　次

理　念　と　基　本　方　針 4
患　者　さ　ん　の　権　利　宣　言 5
患　者　さ　ん　へ　の　お　願　い 5
巻　頭　言 6
沿　革 9
病　院　概　要 11
関　連　施　設 12
年　間　行　事 13
部　内　活　動 14
　医　局 15
　看　護　部 19
　リハビリテーション部 22
　福　祉　部 31
　診　療　部 35
　管　理　部 39
患　者　動　向 41
　平均在院患者数 42
　新入院患者数 42
　患者延べ人数 43
　入院患者稼働率 43
　病棟別入院・転入患者数 44
　病棟別退院・転出患者数 44
　入院患者　ＩＣＤ－１０分類別 45
　退院患者　ＩＣＤ－１０分類別 45
　ＩＣＤ－１０別退院患者平均年齢・平均在院数 46
　外来平均患者数 47
　外来初診患者数 47
　外来患者延べ人数 48

委　員　会　活　動 49
医療安全管理委員会 50
事故対策委員会 52
医療品安全管理委員会 57
医療機器安全管理委員会 58
院内感染対策委員会 59
防災委員会 62
医療ガス安全委員会 63
労働安全衛生委員会 64
公用車運行管理委員会 65
個人情報保護委員会 66
薬事委員会 67
給食委員会 70
摂食嚥下チーム（ＥＳＴ） 71
カルテ開示委員会 72
倫理委員会 73
褥瘡対策委員会 74
図書管理委員会 75
広報委員会 76
サービス向上委員会 77
輸血療法委員会 78
Nutrition　Support　Team 委員会 79
フットケア委員会（ＦＣＴ） 81
認知症ケアチーム委員会（ＤＣＴ） 82
排泄ケアチーム委員会（ＣＳＴ） 83
編　集　後　記 85

理念

誠愛なる医療

基本方針

- 患者さんの人権を尊重し、個人情報を守秘します。
- 法令を遵守し、説明と同意のもと、安全で全人的な医療を行います。
- 活発な研修及び研究活動を展開し、先進的なリハビリテーション医療を提供します。
- 個々の患者さんに適した療養環境を整えます。
- 地域と連携し、社会に貢献できるチーム医療を目指します。

患者さんの権利宣言

当院では次に掲げる患者さんの権利を尊重した医療を行います。

1. 個人の尊厳とプライバシーを守る権利
2. 良質で適切な医療を公平に受ける権利
3. 自らのことを知り、説明を受ける権利
4. 医療行為を選択、そして決定する権利
5. セカンド・オピニオンを申し出る権利
6. 自分の診療に関し記録情報を得る権利
7. 日常生活に配慮した医療を受ける権利

患者さんへのお願い

当院では患者さんの権利を尊重するとともに、以下のことをお願いしています。

ご理解とご協力をお願いします。

1. ご自身の健康状態の変化に気づかれた場合は速やかにお伝えください。
2. 検査や治療などの医療行為は、十分な理解と合意の上、お受けください。
3. すべての患者さんが、快適な環境で適切な医療を受けることができるように、他の患者さんのご迷惑にならないようにご協力ください。

巻　頭　言

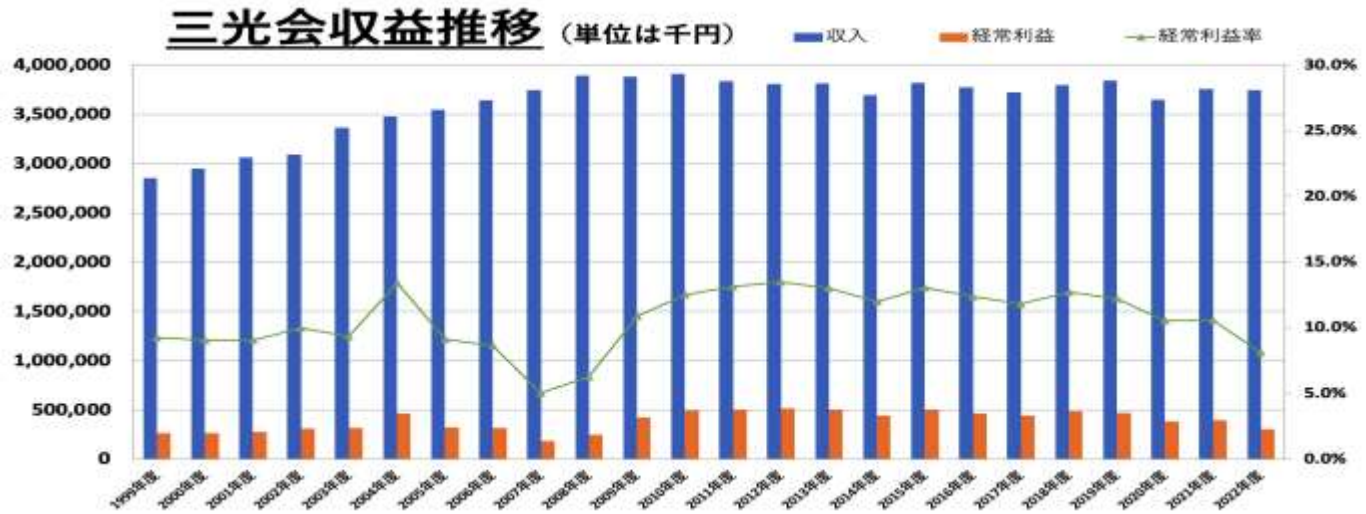
特定医療法人　社団　三光会　　理事長　　井林　雪郎

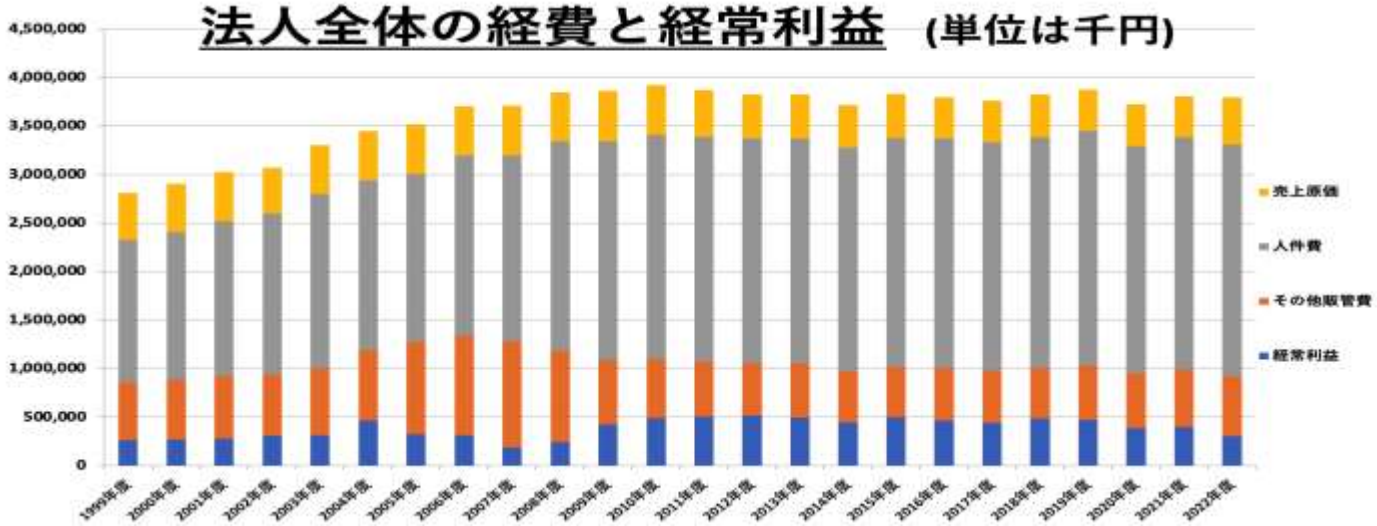
新型コロナウイルス感染症も 3 年目を迎え、三光会各施設ともに その対応策には十分慣れてきた積もりでしたが、夏の第 7 波そして冬の第 8 波においては、過去にない大打撃を受けることとなりました。三光クリニックは幸いにクラスターを免れたのですが、誠愛リハビリテーション病院ならびに介護老人保健施設カトレアでは、コロナ元年に当たる 2020 年度にも増して多くの感染者/濃厚接触者が発生しました。入院患者や利用者の皆さんの受け入ればかりでなく、外来や通所リハビリの受診も制限せざるを得ず、加えて多くの職員らが自宅待機を強いられる結果となりました。これは全国的な流行によるもので 当法人だけの問題ではなかったものの、多くの知恵と努力により見事に大波を乗り越えてくれた全職員に対し改めて謝意を表したいと思います。また、殆どの職員や患者さんが生命予後に関わるような重症に至らなかったことは本当に有り難く幸いなことでした。

病院行事に関しては、コロナ 3 年目の入社式は前年同様 4 階のリハ室を利用し 新入職者と一部幹部のみで執り行いましたが、夏の暑気払い、Xmas 会、忘年会など三密回避が難しい集まり事は全て中止としました。一方で、毎日の朝会を始め各種院内外会議は Zoom を介して続けることにいたしました。職員の多くは 6 月,11 月にそれぞれ第 4,5 回目のオミクロン株対応の新型コロナウイルスワクチン接種を受け、加えて久々のインフルエンザワクチン接種も 11 月に入って行われました。

法人全体の収益に関しては、経常利益で見る限りコロナ元年以降では最も低く、大型クラスターが如何に病院経営・運営に対して厳しい結果をもたらすかを思い知らされました。医業収入だけ見れば昨年比でほぼ同等といえそうですが(因みに コロナ前の 2019 年度 38.4 億→コロナ元年に当たる 2020 年度 36.5 億→コロナ 2 年目の昨年 2021 年度 37.6 億→コロナ 3 年目の今年 2022 年度 37.5 億)、人件費/その他販管費は高止まりないし増加しており(それぞれ上記で 63.0%→63.8% / 14.6%→16.4%)、経常利益はコロナ前の略 4 割減(コロナ前の 2019 年度 4.8 億→一昨年度 3.8 億→昨年度 4.0 億→今年度 3.0 億)となりました --- コロナ元年の 2020 年度ばかりは夏期・冬期賞与削減(1.5+1.8 ヵ月分を支給)を全職員に我慢して戴きましたが、その後の 2 年間は三光会全体の努力/辛抱/助け合いのお蔭と感謝する気持ちから、コロナ前 2019 年度と同額レベルの賞与(2.0+2.0 ヵ月分 満額支給)に戻し継続して参りました。今後のコロナ収束に伴う経営の捲土重来に期待したいところです。

新型コロナウイルス感染症は、漸く 2023 年 5 月 8 日より季節性インフルエンザと同等の 5 類相当に分類され現在に至っていますが、当法人も医療機関としては決して気を抜くことなく、今までの経験を活かして引き続き賢い対応を続けていく所存です。





誠愛リハビリテーション病院新築計画の方は、露国→宇国侵攻に伴う世情不安定/物資不足/物価高騰/コロナ３年目クラスター発生などの悪条件が重なりましたが、多くの職員や日本設計 KK の後押し、旧来の知人を介したゼネコン紹介などの恩恵を受け、トントン拍子に進捗し 2022 年末には KK 熊谷組との契約締結に至りました。予定通り現病院(旧館)前の第一立体駐車場の解体が 2023 年 3 月 13 日より始まり、6 月 2 日には安全祈願式-起工式が行われました。故 小野山薫 前理事長の悲願でもありましたので、まずは一安心といった処ですが、コロナとも上手に付き合いながら今までの健全経営を踏襲することで、1 年半後の本館(東棟)完成移転、３年後の西棟や中央連絡棟の改築/新駐車場完備など全面完成に向け、夢と希望を忘れず“ATM 精神”で前進したいと思います。

年報の発刊に寄せて

今年もまた年報を発刊する時期となりました。新型コロナに関しては 5 類感染症扱いという社会的決断が下されましたが、医療現場では相変わらず感染防御と医療の両立に苦慮する状況が続いています。そして今後の事態を劇的に変化させるような見込みは、今の所、乏しいと言わざるを得ません。

このように閉塞した環境下だからこそ、院内はより固く団結し、互いに助け合うことを大切に進んできたと感じています。ともすれば分断しそうな厳しい労働環境の中で、患者の皆さんのためにと、しっかり歩を進めてきた軌跡が年報に記録されています。

「あの頃は本当に大変だったね」と笑い合える日が一日も早く来ることを願って、2023 年の年報をお届けします。

誠愛リハビリテーション病院 院長　長尾哲彦

沿　革

昭和６３年　３月	大野城市に「誠愛病院」開設（２１０床）
	山下茂雄理事長就任、山下貴史院長就任
	結核指定医療機関、原爆被害者指定病院、生活保護指定
昭和６３年　７月	山下貴史理事長就任
平成　５年　７月	「誠愛病院」を「誠愛リハビリテーション病院」に改称
平成　６年１０月	病院隣接地に「老人保健施設カトレア」を併設
平成１１年　７月	「訪問看護ステーション誠愛」開設
平成１２年　４月	「居宅介護支援事業所カトレア」開設
	「介護老人保健施設カトレア」へ名称変更
平成１４年　７月	回復期リハビリテーション病棟（36 床）開設
平成１５年　１月	黒川徹院長就任
平成１５年　７月	回復期リハビリテーション病棟（40 床）増設
平成１５年１１月	医療機能評価機構認定病院として認定される
平成１６年　９月	Ｒ＆Ｉの長期優先債務格付けにて「ＢＢＢ」取得
平成１７年　１月	亜急性期病棟（10 床）開設
平成１７年　２月	日本脳卒中学会認定教育研修病院に認定される
平成１７年１０月	電子カルテシステム導入
平成１８年１０月	「訪問リハビリテーション事業所」開設
平成１８年１１月	「通所リハビリテーション誠愛」　開設
平成１９年　４月	回復期リハビリテーション病棟（40 床）増設
	「メディカルフィットネス あいあい倶楽部」開設
平成１９年　８月	黒川徹理事長就任
平成１９年１１月	小野山薫理事長就任
平成２０年　４月	井林雪郎院長就任，黒川徹名誉院長就任
平成２１年　３月	病院機能評価（Ver. 5）再認定
平成２１年　４月	日本老年医学会認定施設に認定される
平成２２年　５月	亜急性期病棟（2 床）増床
平成２３年１１月	日本リハビリテーション医学会研修施設に認定される
平成２５年　３月	国税庁より特定医療法人としての承認を得る
平成２６年１１月	病院機能評価（3rdG:Ver.1.0）再認定
平成２６年　４月	回復期リハビリテーション病棟（54 床）増設
平成２６年　８月	病床数を 210 床から 206 床に変更
平成２７年１１月	井林雪郎理事長就任
平成２９年１０月	回復期リハビリテーション病棟（36 床）増設
	全病棟回復期リハビリテーション病棟に変更
平成３０年　４月	長尾哲彦院長就任
令和　２年１０月	メディカルフィットネスあいあい倶楽部　閉所
令和　４年１０月	病床数を 206 床から 199 床に変更

病院概要

理 事 長　　井林　雪郎
病 院 長　　長尾　哲彦
診療科目　　リハビリテーション科
　　神経内科
　　内科
　　整形外科
　　小児科
診療時間　　平　日　AM 9：00～PM12：30
　　PM 1：30～PM 5：00
　　休診日　土曜日、日曜日、祝日
病 床 数　　199 床
　　回復期リハビリテーション病棟　199 床

指　　定　　身体障害者法、生活保護法、労働者災害補償保険法、原爆被爆者法、
　　結核予防法

認　　定　　日本医療機能評価機構認定病院
　　日本リハビリテーション医学会研修施設
　　日本脳卒中学会研修教育病院
　　日本老年医学会認定施設

施設基準　　脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）、運動器リハビリテーション料（Ⅰ）
　　回復期リハビリテーション病棟入院料、集団コミュニケーション療法料
　　呼吸器リハビリテーション科（Ⅰ）、廃用症候群リハビリテーション料（Ⅰ）

医療機器　　ヘリカル CT　　X 線透視装置（ビデオ嚥下造影検査）
　　経鼻内視鏡（嚥下内視鏡検査）　　カラードップラーエコー
　　血圧脈波検査装置　　携帯型自動血圧計
　　近赤外光イメージング装置(NIRS)　　三次元動作解析装置(VICON)
　　機能的電気刺激装置（ＦＥＳ）　　随意運動介助型電気刺激装置（ＩＶＥＳ）
　　嚥下用電気刺激治療機器　　舌圧測定器
　　免荷機能付歩行器　　自立支援用ロボットＨＡＬ腰タイプ
　　簡易自動車運転シミュレーター

当院は、主に脳血管疾患障害に関するリハビリの専門病院です。150 名以上のセラピストにより幅広いリハビリを提供しています。また、併設の介護老人保健施設カトレア、居宅介護支援事業所カトレア、訪問看護ステーション誠愛と連携し、患者さんの退院後のケアの充実にも努めています。

関連施設

<table>
<tr><th>施設</th><th>所在地</th><th>開設年月</th><th>代表窓口</th><th>受付電話</th></tr>
<tr><td>介護老人保健施設
カトレア</td><td>〒816-0956
大野城市南大利 2-7-1</td><td>平成 6 年
9 月</td><td>施設長
岩瀬　豊子</td><td>℡　092-595-6101</td></tr>
<tr><td colspan="5">病状の安定した高齢者の方が住み慣れた地域で親しい人々に囲まれて自立した生活を送れるように、質の高いリハビリテーションや心地よい介護サービスを提供します。
当施設では、ご利用者様がご家族様、地域の方々、ボランティアの方々に囲まれて快適に過ごせるように明るい雰囲気作りを大切にしています。</td></tr>
<tr><td>訪問看護ステーション
誠愛</td><td>〒816-0956
大野城市南大利 2-7-2</td><td>平成 11 年
6 月</td><td>施設長
荒武　裕子</td><td>℡　092-595-8021</td></tr>
<tr><td colspan="5">小児から高齢者の方まで家庭において療養が必要な方に、住み慣れた環境で安心して生活が送れることを目的としています。</td></tr>
<tr><td>居宅介護支援事業所
カトレア</td><td>〒816-0956
大野城市南大利 2-7-2</td><td>平成 12 年
4 月</td><td>管理者
高尾　祐司</td><td>℡　092-595-1350</td></tr>
<tr><td colspan="5">ご利用者様が住み慣れた自宅で安心して生活を送れるように、十分な話し合いを行い、ご利用者様の選択に基づき、適切なサービスが提供できるように他のサービス事業者や医療機関と連携を取りながら支援を行っていきます。</td></tr>
<tr><td>三光クリニック</td><td>〒810-0044
福岡市中央区六本松
4-9-3</td><td>昭和 54 年
3 月</td><td>院長
斉藤　喬雄</td><td>℡　092-713-0468</td></tr>
<tr><td colspan="5">外来の人工透析（血液透析）を行っている専門施設です。 血液透析療法を受けている患者さんが、快適に過ごせるように、それぞれの状態に合った治療を提供しています。昼間透析の他、社会復帰にお役に立つように、夜間透析も週 6 日（日曜日を除く）行っています。
また、高齢者の方や視力や歩行に障害のある方の通院負担が少しでも軽減できればと考え、送迎のサービスも行っております。</td></tr>
</table>

令和４度　年間行事

令和４年

４月　１日　　入社式

１１月３０日　　院内勉強会（アンケート方式）

令和５年

１月　４日　　年賀式

３月１７日　院内勉強会（アンケート方式）

※院内勉強会の内容はP51　を参照

部内活動

医局

看護部

リハビリテーション部

福祉部

診療部

管理部

医　局

文責：医局長　郷田　治幸

＜理念＞

ひとりひとりの患者さんに質の高いリハビリテーション医療を提供すべく、生涯学習の精神を持ち、日々の研鑽に努めます。

＜基本方針＞

- 常に新しい医療知識の修得を心がけ、患者さんから信頼されるよう人間性の向上に努めます。
- 科学的根拠に基づいた医療を、分かりやすく説明し、同意の上に実行します。
- 医の職業倫理と患者さんの権利を念頭に、日々の診療を行います。
- 患者さん中心のチーム医療を推進するため、他職種と連携をとり行います。

＜活動内容＞

2022 年度の医局は、理事長、院長、副院長の 3 名のほか、常勤および非常勤（週 3 日以上）10 名の体制で診療を行った。

今年度の年間入院患者受け入れ総数は 718 人であった。死亡患者は６例で、動静脈奇形再破裂疑いでの心肺停止例、肺炎後廃用による衰弱例、肺炎後衰弱の心肺停止例、くも膜下出血後の誤嚥性肺炎例、小脳梗塞後の心不全例、大腿骨転子部骨折後イレウス後の誤嚥性肺炎例であった。急性期病院への緊急転院は４６例で、内訳は、脳卒中疑い、頭部外傷等の脳神経疾患１１例、消化管出血、腸閉塞などの腹部緊急症１３例、肺炎５例、整形外科術創部感染等１０例、骨折３例などであった。

今年度も引き続き、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の世界的大流行が、当院の診療にも大きく影響した。国内、近隣の流行情報、緊急事態宣言の状況に応じ、入院患者受け入れ時の対策、外来リハビリ制限、面会制限などの対策を行った。当院でも入院患者でのクラスターが発生し、対応を行なった。

種々の研究会での発表や講演を行なったが、今年度も、新型コロナウイルス感染症に関連して研究会等の開催自体が限定的であった。

＜業績＞

1. 論　文　(2022 年 1 月～12 月)

種別	著者	論文題名	誌名
英文原著	Fukuda K, Matsuo R, Kamouchi M, Kiyuna F, Sato N, Nakamura K, Hata J, Wakisaka Y, Ago T, Imaizumi T, Kai H, Kitazono T; FSR Investigators. (Ibayashi S, et al).	Day-by-Day Blood Pressure Variability in the Subacute Stage of Ischemic Stroke and Long-Term Recurrence.	Stroke. 2022 Jan;53(1):70-78. doi: 10.1161/STROKEAHA. 120.033751. Epub 2021 Sep 9.
和文総説・その他	伊藤鉄英、長尾哲彦	対談：「慢性膵炎」の話をしよう	臨床と研究 99(6):106-113, 2022
和文総説・その他	井上尚英、長尾哲彦	対談：パーキンソン病と共に歩んできた 50 年	臨床と研究 99(11):80-87, 2022
和文総説・その他	鍵山智子	重症患者受け入れ 1 割増の余波―現場から 「受け入れ患者層広がったが、きめ細やかな対応で本来のリハビリテーション病院としての機能を堅持」	回復期リハビリテーション 21(3):7, 2022
和文総説・その他	長尾哲彦	日臨内だより	福岡県内科医会ニュース 148, 2-3, 2022
和文総説・その他	長尾哲彦	人生の原動力と一兵卒の勘、そして母の教へ	きんむ医 203:20-22, 2022
和文総説・その他	長尾哲彦	ちっとも褒められなかった弟子から天国の先生へ	尾前照雄先生とともに. 九大第二内科同門会, 福岡, 2022, 160-162
和文総説・その他	重症脳卒中における生命倫理プロジェクトチーム(位田隆	重症脳卒中の維持期における緩和と療養に関する提言 - 一般社団法人日本脳卒中学会.	脳卒中 44:81-85, 2022

	一、井林雪郎、小笠原邦明、ほか)		
和文総説・その他	重症脳卒中における生命倫理プロジェクトチーム(位田隆一、井林雪郎、小笠原邦明、ほか)	自宅復帰困難な後遺症を呈する脳卒中の維持期（生活期）における緩和と療養に関する提言 - 一般社団法人日本脳卒中学会.	脳卒中 44:671-679, 2022
著書	長尾哲彦	ドクター長尾の健康Q&A	大道学館出版, 福岡, 2022
著書	長尾哲彦（分担執筆）　白石憲男、上田貴威編集	知っておきたい高齢者に特徴的な消化器の生理と病理	高齢者に対する消化器外科のminimal requirements. メジカルビュー社, 東京, 2022, 14-21

2. 研究会ほか

種別	演者名	タイトル	講演会など名称	開催地	月日
座長司会等	井林雪郎	特別講演「脳梗塞の治療から二次予防まで～薬物療法も踏まえて～.」福岡大学筑紫病院脳神経外科教授 東登志夫先生の座長	脳梗塞を軸とした脳心連携WEBセミナー（第一三共KK会議室）	福岡市発信Webセミナー	5月23日
班会議	井林雪郎	脳卒中における緩和療養／生命倫理に関するPT会議（第9回）	脳卒中における緩和と療養の生命倫理に関するPTによるガイドライン策定班会議	京都市発信Webinar	6月10日
パネルディスカッション	長尾哲彦・他	保険診療懇話会資料例検討会	福岡県内科医科筑後ブロック保険診療懇話会	久留米市	7月14日
座長司会等	井林雪郎	Webセミナー 脳卒中診療について考える. Closing Remarks	Stroke Hot Topics @ Web Seminar（第一	福岡市発信Webセミナー	7月21日

			三共 KK 会議室)		
班会議	井林雪郎	脳卒中における緩和療養／生命倫理に関する PT 会議（第 10 回）	脳卒中における緩和と療養の生命倫理に関する PT によるガイドライン策定班会議	京都市発信 Webinar	8 月 5 日
座長司会等	井林雪郎	特別講演「脳卒中後てんかんに最適な治療薬とは～最近のエビデンス～」.国立循環器秒研究センター脳神経内科医長 田中智貴先生の座長	第 15 回誠愛リラックスカンファランス	福岡市	9 月 15 日
座長司会等	鍵山智子	みんなでみる手足のつっぱり（上肢痙縮・下肢痙縮）～ADL 向上・介助量軽減を目指して～	医療・介護多職種連携セミナー in 筑紫	福岡市	9 月 15 日
大学院講義	井林雪郎	大学院講義：脳卒中学壱の巻	聖マリア学院大学大学院 看護学研究科 講義	久留米市	10 月 7 日
大学講義	長尾哲彦	患者のための歯科・医科連携	福岡歯科大学講義	福岡市	10 月 14 日
大学講義	鍵山智子	回復期リハビリテーションについて～脳卒中を中心に～	福岡歯科大学講義	福岡市	10 月 14 日
班会議	井林雪郎	脳卒中における緩和療養／生命倫理に関する PT 会議（第 11 回）	脳卒中における緩和と療養の生命倫理に関する PT によるガイドライン策定班会議	京都市発信 Webinar	10 月 21 日
講演	長尾哲彦	認知症を吹っ飛ばせ	大野城市南地区コミュニティ	大野城市	10 月 26 日
研究会講演	長尾哲彦	訪問歯科診療と歯科・医科歯科連携	熊本県回復期医科歯科病診連携推進研修会	熊本市	10 月 30 日

大学院講義	井林雪郎	大学院講義：脳卒中学弐の巻	聖マリア学院大学大学院 看護学研究科 講義	久留米市	11 月 4 日
研究会講演	長尾哲彦	つながる！臨床検査～データから患者を知る～	日本臨床衛生技師会九州支部医学検査学会	久留米市	11 月 5 日
講演	長尾哲彦	二度と来ちゃ駄目よ	FLS 院内研修会	大野城市	11 月 7 日
大学講義	横山葉子	脳血管疾患とリハビリテーション①（解剖と生理・脳血管障害・高次脳機能障害）	九州国際医療福祉大学 医療学部講義	福岡市	11 月 11 日
大学講義	鍵山智子	脳血管疾患とリハビリテーション②	九州国際医療福祉大学 医療学部講義	福岡市	11 月 18 日
大学院講義	井林雪郎	大学院講義：脳卒中学参の巻	聖マリア学院大学大学院 看護学研究科 講義	久留米市	12 月 9 日
班会議	井林雪郎	脳卒中における緩和療養／生命倫理に関する PT 会議（第 12 回）	脳卒中における緩和と療養の生命倫理に関する PT によるガイドライン策定班会議	京都市発信 Webinar	1 月 6 日
研究会講演	井林雪郎	脳卒中回復期における医科歯科連携診療の現状～話題提供～（150 分）.	Continuing Dental Education 2022	東京都	1 月 15 日
研究会講演	井林雪郎	脳梗塞を軸とした脳心連携 WEB セミナー. Opening Remarks	脳梗塞を軸とした脳心連携 WEB セミナー（第一三共 KK 会議室）	福岡市	1 月 20 日
研究会講演	井林雪郎	脳卒中の回復期リハビリテーション.	第４回地域で診る脳卒中～予防から予後管理まで～（第一三共 KK 会議室）	福岡市	1 月 27 日
講演	長尾哲彦	認知症は怖くない～大切なのは向き合い方と支え合い～	福岡県地域住民、家族介護者	朝倉市	2 月 4 日

			向け認知症公開講座		
講演	長尾哲彦	バイタルサインはどのくらい役立つのかな？	院内勉強会	大野城市	3 月 3 日
講演	長尾哲彦	バイタルサインはどのくらい役立つのかな？	院内勉強会	大野城市	3 月 24 日
講演	長尾哲彦	バイタルサインはどのくらい役立つのかな？	院内勉強会	大野城市	3 月 31 日
講演	長尾哲彦	新米ナースのためのなるほど認知症：講義編	メディカ出版	e-ラーニング	
講演	長尾哲彦・他	新米ナースのためのなるほど認知症：ロールプレイ編	メディカ出版	e-ラーニング	

看　護　部

文責：看護部副院長　金山　萬紀子

＜理念＞

セルフケアの再獲得と適応促進への援助を行い、患者さんと家族の自立を目指した看護を実践します。

＜基本方針＞

- 対象者の意志を大切にする事を念頭におき、その人が自分の生活の場で再び生活できる（適応）よう、セルフケア能力の向上のために看護を実践する。
- 障害を受け入れ（適応）、病気の中に意味を見いだすことができるような看護を実践する。
- 障害を持った人々の自立へ向けて、機能回復から社会への統合まで、一貫した看護を実践するために、日々アセスメントと介入技術の向上に努める。
- 看護の重要概念である「人間・健康・環境･看護」について研究活動を行い看護の発展に、ひいては人々の健康と幸福のために、日々研鑽する。

＜活動内容＞

「セルフケアの再獲得と適応促進への援助を行い、患者さんと家族の自立を目指した看護を実践します」という看護部の理念を、実践の中で具体的に展開していくために、平成 10 年からロイ適応看護モデル（The Roy Adaptation Model）を基盤とした看護を実践している。

当院の患者の多くは脳卒中患者であり、運動機能障害や高次脳機能障害を有している。そのため、看護師は患者がセルフケアを再獲得できるよう看護介入を行っている。質の高いリハビリテーション看護を提供できるよう、研究活動を行い日々研鑽している。

１．看護部管理体制（2022 年 4 月 1 日現在）

副院長　　金山萬紀子
看護部長　　中村真紀
看護部次長　　吉村綾子（慢性疾患看護専門看護師）
看護部次長補佐　　恵良知子

日本看護協会認定制度による専門看護師、認定看護師

専門分野名	人数
慢性疾患看護専門看護師 （脳卒中リハビリテーション看護）	2

２．2022 年度看護部目標

【2022 年度目標】	【活動実績】
(1) 財務の視点 ・新型コロナウイルスの影響を最小限にする ・新卒看護師の採用数 10 名	・第 7 波、第 8 波において一時的に病棟を閉鎖 ・新卒看護師 9 名採用
(2) 患者満足の視点 ・安全な看護の提供（転倒・転落事故の減少） 目標：前年度 155 件 前年度比 5%減少 140 件以下 ・脳卒中再発予防教育	・転倒件数 167 件、前年比 9%増 ・福岡大学筑紫病院と連携し再発予防教育を実施
(3) 業務プロセスの視点 ・安全で効率的な看護・介護の提供	・技能実習生の受入れ準備
(4) 人材育成の視点 ・看護研究の推進と研修会への参加 ・看護大学の実習生の受け入れ	・研修会 1 件 ・10 グループの実習受け入れ

財務の視点では、新型コロナの第 7 波では、患者・職員の感染者が増加し一時的に１つの病棟を閉鎖した。また、第 8 波でも新型コロナ感染者が増加し 1 つの病棟を閉鎖して対応した。2022 年度の新人採用は、新型コロナの感染拡大の影響で病院見学も中止となったため、web によるインターンシップを開催し、新卒看護師の採用のための活動を継続して行っていった。その結果、9 名の新卒看護師を採用できた。

患者満足の視点では、転倒・転落事故が前年度 155 件から今年度 167 件と、前年度と比べ 9%増加した。また、今年度は福岡大学筑紫病院で実施されている脳卒中患者を対象とした再発予防教育を回復期でも継続して行い、患者が退院後も主体的に再発予防に取組めるような仕組みづくりを連携して行った。

業務プロセスの視点では、介護職の安定的な確保が難しく、安全な看護・介護を提供できるようインドネシアからの技能実習生を受け入れる準備を行った。

人材育成の視点では、研究会での発表 1 件であった。看護大学の実習の受け入れでは、今年度から第一薬科大学からの実習生も受け入れ、計 10 グループの実習生を受けいれた。しかし、新型コロナの感染が拡大傾向にあることから実習が中止となり、4 グループの受入れができなかった。

＜業績＞

1. 講義

○聖マリア学院大学大学院看護学研究科（修士課程）講師（久留米市、12 月）
中村真紀

2. 執筆

○患者さんのやる気向上委員会～ADL をぐっと引き上げたみんなの成功体験を持ち寄ろう～
《持ち寄れ！成功事例～ふりかえればこれがターニングポイントだった～》
10.リハでできる ADL を病棟でする ADL につなげる！
吉村綾子
リハビリナース 6,P40-41,メディカ出版 Vol.15 No6,10 月 2022

3. 研究会

○「脳卒中患者の再発予防に向けた継続患者教育の検討」
市丸ひかり、戸嶋早織
第 10 回ちくし学び舎ネットワーク看護研究・看護実践発表会（web,11 月 25 日）

4. 看護実習

○第一薬科大学　3 年生　老年期看護学　老年期実習
2 病棟：2022.9.19～9.30　5 名、12.12～12.23　5 名
5 病棟：2022.9.19～9.30　5.名、12.12～12.23　5 名

○福岡看護大学　3 年生　成人看護学　慢性期・終末期実習
2 病棟：2022.10.3～10.21　4 名
5 病棟：2022.10.3～10.21　4 名
1 病棟：2022.10.24～11.11 4 名、2022.1.10～1.27　5 名
3 病棟：2022.10.24～11.11 4 名、2022.1.10～1.27　4 名

リハビリテーション部

文責：副院長　赤松　泰典

＜理念＞

患者さん個々のニーズに応じた、最大限の機能回復と質の高い日常生活活動の獲得を目指したリハビリテーションを実践する。

＜基本方針＞

- 小児から高齢者までの障害を持った方に対し、入院から在宅にいたる継続的なリハビリテーションを実施する。
- 発症後の亜急性期から回復期では、最大限の機能回復と活動能力の獲得を積極的に行う。
- 生活期では、更なる機能性の向上と、環境適応能力の拡大を図る。
- ボバース概念を基礎とした神経リハビリテーションを展開し、質の高い日常生活の獲得を目指す。
- 行動障害に対しては、適応行動とコミュニケーション能力の向上を図りながら、社会適応行動を支援する。
- 地域社会との連携をとりながら、個々のニーズや状況に応じた在宅復帰や職業復帰と社会参加を支援する。
- リハビリテーション効果の検証に積極的に努める。
- 臨床に根ざした学術研究及び研修活動を積極的に行う。

＜活動内容＞

１．リハビリテーション部について

当院はリハビリテーション専門病院として、小児から成人、高齢者までの幅広い年齢層の患者にボバース概念を基盤とした神経リハビリテーションを積極的に提供している。入院では脳卒中を中心とした中枢神経疾患、骨折などの運動器疾患、肺炎後の呼吸器疾患などの患者を対象に積極的な機能回復と生活障害の改善を行い、退院後できる限り住み慣れた地域での在宅生活へ復帰することを支援している。また継続的なリハビリテーションの実施を医療による外来リハビリテーション、もしくは介護保険での通所リハビリテーションなどで行うことで社会復帰、社会参加を支援している。

小児においては、外来で脳性麻痺を中核とした肢体不自由児や、広汎性発達障害を中核とした発達障害児に対し、乳幼児から就園就学に至るまで幅広い生活支援を行っている。

また併設機関である通所リハビリテーション誠愛、介護老人保健施設カトレア、訪問看護ステーション誠愛、居宅介護支援事業所カトレアと連携しながら患者の在宅復帰や社会参加を支援している。

２．施設基準

脳血管リハビリテーション料（Ⅰ）、廃用症候群リハビリテーション料（Ⅰ）、運動器リハビリテーション料（Ⅰ）、呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）を算定している。

３．スタッフ数（令和４年４月）

(1)法人内リハビリスタッフ総数：
理学療法士（PT）76 名、作業療法士（OT）57 名、言語聴覚士（ST）27 名、
計 160 名。
(2)誠愛リハビリテーション病院：
理学療法士 59 名、作業療法士 41 名、言語聴覚士 24 名、計 124 名。
(3)通所リハビリテーション誠愛：
理学療法士 5 名、作業療法士 4 名、言語聴覚士 1 名、　計 10 名。
(4)介護老人保健施設カトレア：
理学療法士 5 名、作業療法士 2 名、言語聴覚士 1 名、計 8 名。
(5)訪問看護ステーション誠愛：
理学療法士 4 名、作業療法士 5 名、言語聴覚士 1 名、計 10 名。

４．業務実績

令和 4 年度は入院外来患者に対する提供単位数の実績の総数は 383,248 単位で昨年（415,811 単位）と比べ 32,563 単位の減少（マイナス 7.8%）である。

内訳は入院で 28,939 単位、外来成人で 2,059 単位、外来小児で 1,583 単位減少している。今年度は新型コロナウィルス感染症大流行による影響が大きく、提供単位が大幅な減少となった。

令和3年度～4年度提供単位数の実績

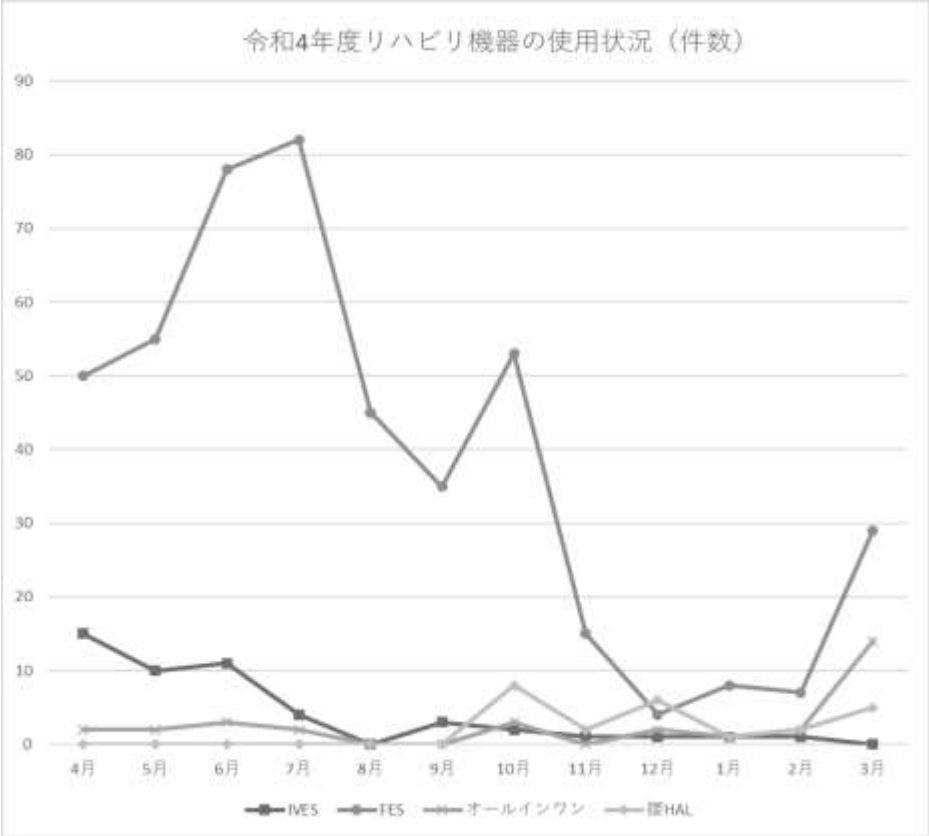
	年月	全体	入院	外来	
				成人	小児
令和3年度	4月	34,086	30,635	1,071	2,380
	5月	34,489	31,490	976	2,023
	6月	36,463	32,660	1,156	2,647
	7月	36,553	33,061	1,063	2,429
	8月	36,301	33,225	964	2,112
	9月	35,579	32,335	1,112	2,125
	10月	36,533	32,784	1,314	2,435
	11月	35,008	31,449	1,253	2,306
	12月	35,815	32,318	1,208	2,289
	1月	34,459	31,673	1,084	1,702
	2月	29,992	27,743	1,007	1,242
	3月	30,533	27,675	1,125	1,733
	総数	415,811	377,048	13,333	25,423
	平均	34,651	31,421	1,111	2,119
令和4年度	4月	31,652	28,984	1,034	1,634
	5月	35,511	32,905	1,021	1,585
	6月	35,599	32,453	1,048	2,098
	7月	31,962	29,207	867	1,888
	8月	29,522	26,688	952	1,882
	9月	34,778	31,872	873	2,008
	10月	35,686	32,618	961	2,107
	11月	35,098	31,992	962	2,144
	12月	24,730	21,973	891	1,866
	1月	25,691	22,925	843	1,923
	2月	29,368	26,314	877	2,177
	3月	33,651	30,178	945	2,528
	総数	383,248	348,109	11,274	23,840
	平均	31,937	29,009	940	1,987

５．最大限の機能回復と活動能力の獲得のための取り組みについて

機能回復と活動能力の獲得を目指すために最新の評価機器や治療機器などを導入してリハビリテーションの効果を上げていくように努力している。下記に導入した評価・訓練機器のリストと使用状況をまとめた。

導入した評価・訓練機器や治療法などについて

導入時期	導入した評価・訓練機器や治療法	目的
平成28年	ボツリヌス療法	外来の脳卒中患者を対象に麻痺側上肢の痙縮に対して、ボツリヌス療法を行っている。リハ部としては注射直後のストレッチ治療を実施し、導入前後の関節可動域、筋力や歩行の変化を計測している。
	嚥下内視鏡検査（swallowing videoendoscopy：以下VE）	嚥下障害患者の咽喉頭粘膜の状態や声門閉鎖機能、分泌物の貯留・気道への流入の有無を視覚的に確認でき、より細かな摂食嚥下機能の評価ができるようになった。
	機能的電気刺激(FES)装置（伊藤超短波株式会社）	歩行神経筋電気刺激装置を導入し、麻痺筋の筋再教育を行い脳の可塑性を促通する治療を行っている。
平成29年	体幹装具Trunk Solution（トランクソリューション株式会社）	東京大学による共同研究に協力していた体幹装具Trunk Solutionを治療に使用している。
平成30年	随意運動介助型電気刺激装置（OG技研） Integrated Volitional control Electrical Stimulator（IVES）	脳血管疾患や運動器疾患で麻痺したり、動きが悪くなった筋に対して、電気刺激を用いて運動機能を改善するために使用している。
令和元年	簡易自動車運転シミュレーター（SiDS）（竹井機器工業株式会社）	病気や交通事故などの要因により、高次脳機能障害が残存した運転免許保有者の運転再開可否の診断に役立てている。
	JMS舌圧計（株式会社ジェイ・エム・エス）	摂食嚥下障害の方々の舌の筋力測定を行い評価に役立てている。
	ペコぱんだ（株式会社ジェイ・エム・エス）	舌の筋力を効果的に強化できる訓練機器で、口腔内に入れて舌圧を加えて舌の筋力向上を図るもので、「極めて柔らかめ」、「柔らかめ」、「やや柔らかめ」、「普通」の４段階あり患者の機能により使い分けて使用している。
	HAL®腰タイプ 自立支援用（サイバーダイン社）	HAL®腰タイプをリハビリに利用することで、立ち上がり動作や歩行動作に必要な股関節機能の再生・改善につなげるように使用している。
令和２年	オール・イン・ワン（サイバーダイン社）	立位が不安定な方でも安全かつ快適に歩行訓練を行うために使用している。



６．当院リハビリテーション部の３つの柱（臨床・教育・研究）について

（１）臨床

入院：

199 床すべてが回復期リハビリテーション病棟であり、リハビリテーションに特化した体制をとっており、3 病棟と 5 病棟が回復期リハビリテーション病棟１、その他の病棟が回復期リハビリテーション病棟３を認可されている。

リハビリテーション部の各病棟担当セラピストは専従で配置されており、多職種による連携をとりながら患者の在宅復帰、社会復帰を目指している。

また回復期リハビリテーション病棟では、365 日リハビリテーションを提供できる体制と日常生活に直接介入していくため、早朝や夕方の時間にフレックスリハを実施している。

今年は新型コロナウィルス感染症によるクラスターが発生したため、FIM 実績指数がすべての病棟で下がっているが、全体としては実績指数 40 の目標を達成している。令和 4 年度の病棟別の内訳については以下に示す。

回復期リハビリテーション病棟　実績指数に関する報告状況（令和4年4月−平成5年3月）

	4月−9月		7月−12月		10月−3月	
	単位/人	FIM実績	単位/人	FIM実績	単位/人	FIM実績
1病棟	5.9	49.0	5.8	51.1	5.4	45.1
2病棟	6.0	53.4	5.9	50.3	5.7	40.2
3病棟	6.4	50.7	5.9	42.8	5.8	37.3
5病棟	5.8	47.3	5.6	42.7	5.9	42.1
6病棟	6.0	47.0	5.5	48.3	5.3	37.3
平均	**6.1**	**49.8**	**5.8**	**46.7**	**5.6**	**40.3**

外来成人：

当院退院後の患者と他院からの紹介された患者に対して、継続したリハビリテーションの必要性がある場合、外来でのリハビリテーションを実施している。対象としては主に脳血管障害などの中枢神経疾患、骨折などの術後の運動器疾患で回復途中にある患者である。また介護保険によるリハビリテーションの対象外である患者に対しても回復の可能性があれば、引き続きリハビリテーションを継続している。

外来小児：

18 歳までの脳性麻痺などによる肢体不自由児と、未就学の広汎性発達障害を主としたコミュニケーションや社会適応に問題がある発達障害児を対象にリハビリテーションを行なっている。さらに令和 4 年度は福岡市立南福岡特別支援学校へ教育相談にセラピストを派遣し 3 件実施している。

（2）教育

卒前教育：

学生の臨床実習を毎年実施している。令和 4 度はコロナ禍の影響で中止になることもあったが 14 校 21 名の長期実習生を受け入れた。当院では平成 29 年度からクリニカルクラークシップ（clinical clerkship）を導入し、臨床実習指導者の認定者による指導を実施している。現在、当院では 33 名の臨床実習指導者（理学療法士・作業療法士）が在籍し、充実した学生教育ができる体制を用意している。

また今年度も養成校（医療福祉専門学校　緑生館）への講師派遣も行い、セラピストの育成にも貢献している。

卒後教育：

誠愛リハビリテーション病院研修会は平成 2 年より内外の講師を招き、多岐にわたる多くの研修会を企画・開催していたが、令和 4 年度からすべて中止している。また他組織、地域での研修会への講師派遣をオンラインで少しずつ再開している。

職員教育：

新人に対しては、入職時より基本的な知識、技術の獲得のために新人教育を行っており、4～5 月は毎日、講義や実技を中心に指導している。さらに全職員に対しては経験年別の症例検討会、診療別や専門領域での勉強会や実技練習などを開催している。実際の治療場面での臨床指導（スーパービジョン）では、ボバース国際インストラクター及び部長、次長が全職員を対象に行い、職員一人一人の治療技術の向上を図っている。

（3）研究

当院ではそれぞれの専門領域や興味がある分野での研究活動を積極的に行い、各専門領域での学会などで研究成果を発表している。三次元動作解析装置(VICON 社)などの機器を使った研究や、臨床場面での症例から学んだことを取りまとめた症例研究などを行なっており、今年度は専門領域や診療ごとの研究は 3 学会に 5 演題を発表し、論文投稿を 1 件行った。

さらに年 1 回、職員の学術研究活動を活発にするためにリハ部内での研究発表会を開催している。

１．地域派遣業務

活動名	派遣場所	派遣職員	活動日程
教育相談	福岡市立 南福岡特別支援学校	理学療法士又は 作業療法士又は 言語聴覚療法士	3 回/年

２．臨床実習受け入れ養成校

養成校名	PT	OT	ST
北九州リハビリテーション専門学校	1	1	
九州中央リハビリテーション学院	1		
九州栄養福祉大学	1	1	
麻生リハビリテーション大学校		1	
国際医療福祉大学	1	1	
帝京大学	1	1	
柳川リハビリテーション学院	1	1	
福岡医療専門学校	1		
西九州大学	1	1	
医療福祉専門学校　緑生館	1	1	
徳島文理大学	1		
広島大学		1	
鹿児島大学		1	
福岡国際医療福祉大学			1
各課合計	10	10	1
全体合計	21		

３．職員研修一覧

研修名	期間	頻度	時間数	内容
新人教育研修	4 月	週 5 回	40 分	脳卒中患者に対する評価と治療介入の講義・実技
	5～1 月	月 2～3 回	90 分	OJT 研修（講義・実技）
職員教育(2～3 年目)	7～12 月	2 ヶ月に 1 回	90 分	OJT 研修（講義・実技）

ユニット別勉強会	7～12月	隔週木曜日	50分	ユニットでの症例検討や講義
外部研修等の伝達	7～12月	隔週水曜日	30分	研究発表、学会報告、実技伝達等
院内研究発表会	来年度へ延期	年1回	1日間	基調講演・シンポジウム

4．学会発表

種別	演者名	演題	学会
国内学会	古場友貴、大田瑞穂、渕雅子	ADLチェックシートを使用した排泄動作の評価－評価者による違いの検討－	第56回日本作業療法学会、2022年9月16日～9月18日
国内学会	中村竜一	ATTENTIONを用いた反応時間と臨床検査との関係性	第56回日本作業療法学会、2022年9月16日～9月18日
国内学会	田邉紗織、大田瑞穂、玉利誠	脳卒中患者の歩行能力と歩行時の体幹の動態～介助期と自立期の立脚初期に着目して～	第20回日本神経理学療法学会学術大会、2022年10月15日～10月16日
国内学会	青木淳、大田瑞穂、玉利誠	Trunk Solutionが脳卒中片麻痺患者の起立へ及ぼす影響	第11回日本支援工学理学療法学会、2022年12月3日～12月4日
国内学会	杉原帆香、高野橋由幸、佐藤慧志、田邉紗織、大田瑞穂	脳卒中片麻痺患者の下肢装具作製における理学療法士の臨床意思決定に与える要因～歩行分析能力と装具の知識・経験・理学療法士の価値観を含めた考察～	第11回日本支援工学理学療法学会、2022年12月3日～12月4日

5．論文投稿・書籍執筆

タイトル	著者名	ページ	出版社	発行年
臨床で使える半側空間無視への実践的アプローチ	金澤省吾　渕雅子	P324-P333（10ページ）	医学書院	2022年

通所リハビリテーション誠愛

文責：通所リハビリテーション誠愛　課長　古賀　孝治

＜基本方針＞

- 介護保険におけるリハビリテーションとして、医療保険（入院、外来）でのリハビリテーションや他の介護保険サービスと連携の取れたリハビリテーションを実施する。
- 生活期のリハビリテーションとしての単なる機能維持に留まらず、更なる機能向上・改善を目指し質の高いリハビリテーションを積極的に展開する。
- 利用者自身の身体への意識づけや生活習慣の見直し、社会交流の促進など、より主体的で健康的な生活が送れるように支援する。

＜活動内容＞

当事業所は誠愛リハビリテーション病院の併設施設として、平成 18 年 11 月に 3～4 時間の通所リハとして開設、平成 19 年 6 月より新棟の現在の場所にて運営している。また、平成 25 年 1 月から 1～2 時間の短時間通所リハを開設している。

「介護保険における外来リハビリテーション」との位置づけで 3～4 時間は午前 35 名、午後 35 名の定員、1～2 時間は午前 11 名、午後 11 名の定員でいずれも食事・入浴サービスなしのリハビリテーションに特化したサービス提供を実施している。

１．スタッフ数（令和 5 年 3 月現在）

理学療法士 4 名、作業療法士 4 名、相談員 1 名、助手 4 名　計 13 名

２．特色

○セラピスト（理学療法士、作業療法士、言語聴覚士）によるマンツーマンでの個別リハビリテーションを重視し、要支援者への個別リハビリも実施している。1～2 時間の短時間通所はさらに個別リハビリを重視した内容の運営を行っている。

○グループ訓練を毎回実施し、利用者自らが自身の身体の状態や能力に気づき、より良い身体機能、生活及び生活習慣の再構築に繋がるような内容の指導を行っている。

○フィットネスマシンの活用やセラピスト指導による自主訓練を充実し、利用者自身の健康づくりへの意識づけを積極的に行うように援助している。また、利用者同士が互いの取り組む姿勢に接する事が、配慮、援助、相談などの社会的交流の促進に繋がっている。

福　祉　部

文責：福祉部部長　中村真紀

＜理念＞

疾病や障害等によって生じる患者・家族が抱える諸問題について、院内スタッフや行政等との連携を図り、地域で再び生活できるようにサポートしていきます。

＜基本方針＞

- 自らの先入観や偏見を排し、患者を受容し、患者の自己決定を尊重する。
- 患者との専門的援助関係を最も大切にし、必要な情報を適切な方法、分かりやすい表現を用いて提供し、患者の利益を優先する。
- 実践現場において最良の業務を遂行するため、互いの専門性を尊重し、他の専門職等と連携・協働する。
- 最良の実践を行うために教育、研修に参加し、援助方法の改善と専門性の向上に努める。
- 専門職としての自覚を高め、地域社会との交流を行い、地域福祉の増進に積極的に取組む。

＜活動内容＞

入院部署においては、入退院の動向を詳細に分析しながら調整を図った。2022 年度の紹介患者総数は 882 名で前年比 62 名増であったが、入院のお断り・キャンセルも 17 名増・39 名増となり、入院患者数は 726 名、稼働率は 81.8%となった。また、紹介から入院日までの期間が平均 11.1 日、30 日以上経過した患者が 23 名・3.2%存在した。期間の延長は、病状の悪化、主疾患以外の発症、新型コロナウイルス罹患、濃厚接触者による観察期間、当院の院内クラスターによる受入れ遅延によるものである。様々な状況下においても、紹介から早期に受入れができるよう入退院管理の強化を継続して努めていった。そして、月に 1 回ではあるがソーシャルワークの資質向上を目指すため、症例を共有しながら最適な退院支援のあり方を検討した。

外来部署においては、主に地域で暮らす方々の生活がより良くなるよう相談・支援を行った。成人外来では医療保険でのリハビリテーションから介護保険でのリハビリテーションへの移行、小児外来ではリハビリテーションの終了に伴う社会資源への移行などの支援を行った。

2020 年 6 月に開設した「相談支援事業所 誠愛」においては、登録利用者が約 130 名となり、地域の事業所等と連携を図りながら利用者へのサービス利用援助を展開した。

１．成人入院

前方連携支援担当：天本智大、高橋麻理

後方連携支援担当：井上薫、澤田洋子、藤嶋泰葉、金沢由貴、塚口良幸、山口瑠華

■活動内容：入退院を中心とした支援

・入院前の電話による情報収集

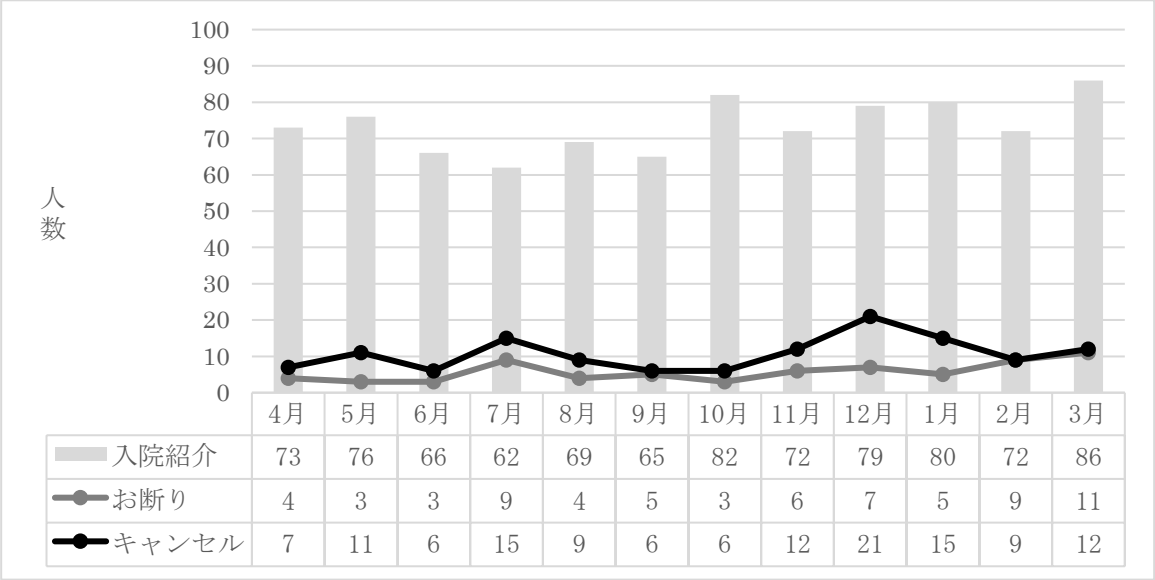
・入院中の経済的問題に対する相談対応、介護保険サービスの案内や申請方法の説明、身体障害者手帳や障害年金等の諸手続きの案内等

・退院支援、退院後家庭訪問（今年度は中止）

・在宅復帰に際し、必要な社会資源や家屋環境等の調整や必要に応じて各医療機関や事業所等と相談や連携を図りながら在宅調整

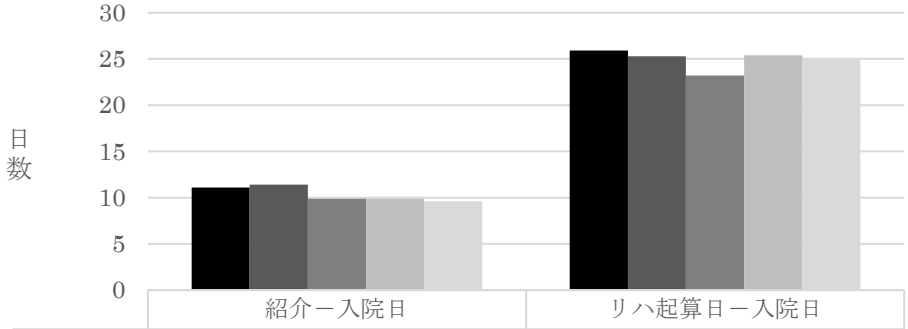
（1）紹介患者件数

n=882



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入院紹介	73	76	66	62	69	65	82	72	79	80	72	86
お断り	4	3	3	9	4	5	3	6	7	5	9	11
キャンセル	7	11	6	15	9	6	6	12	21	15	9	12

（2） 入院日までの日数



	紹介－入院日	リハ起算日－入院日
2022年度	11.1	25.9
2021年度	11.4	25.3
2020年度	9.9	23.2
2019年度	9.9	25.4
2018年度	9.6	24.9

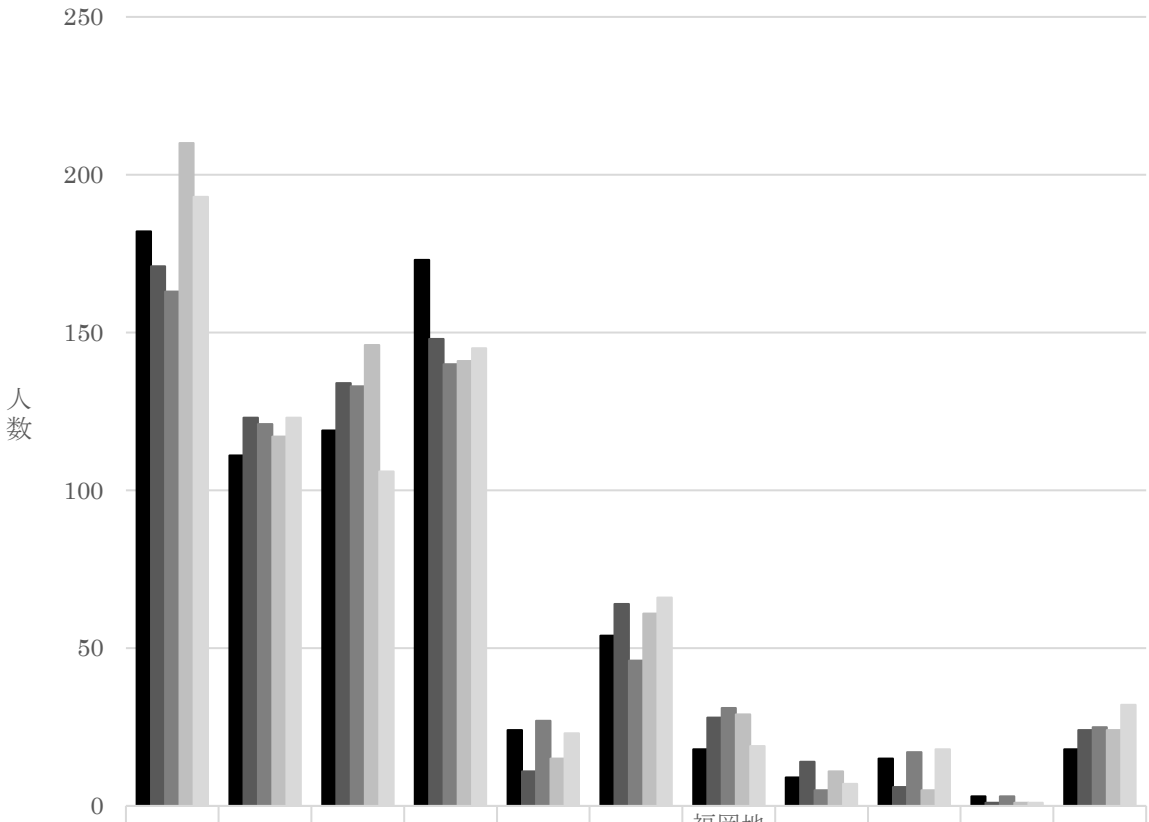
（3）入院患者数

月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
人数	65	73	66	41	54	59	73	64	42	53	67	69	726

（4）疾患別入院患者数

脳梗塞	脳出血	くも膜下出血	大腿骨骨折	その他	合計
198	91	23	174	240	726
27.3%	12.5%	3.2%	24.0%	33.1%	100%

（5）入院地域別患者数



	大野城市	春日市	太宰府市	筑紫野市	那珂川市	福岡市	福岡地区その他	筑豊地区	筑後地区	北九州地区	県外
2022年度	182	111	119	173	24	54	18	9	15	3	18
2021年度	171	123	134	148	11	64	28	14	6	1	24
2020年度	163	121	133	140	27	46	31	5	17	3	25
2019年度	210	117	146	141	15	61	29	11	5	1	24
2018年度	193	123	106	145	23	66	19	7	18	1	32

（6）退院患者数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
人数	69	62	69	54	52	53	59	63	76	47	62	57	723

（7）転帰別退院患者数とその割合（回復期リハ病棟対象外患者も含む）

	軽快	転院(急)	転院(慢)	カトレア	施設	死亡	総数
人数	558	59	51	25	23	7	723
割合	77.2%	8.2%	7.1%	3.5%	3.2%	1.0%	100%

２．外来部門

（１）成人外来

担当：竹下太、根本智寿子

■活動内容：相談業務を中心とした支援
・経済的問題への対応（診療費の支払いなど）
・各種公的制度の案内・手続き支援
・在宅医療・在宅介護の問題への対応
・各種苦情の対応
・外部の医療施設・介護事業所との連携

（２）小児外来

担当：竹下太、根本智寿子

■活動内容
・新患診察での患児をとりまく生活環境の情報収集
・福祉制度の相談、説明、必要に応じて行政との連絡調整
・特別支援学校への見学会サポートや外来リハビリテーション終了後の福祉事業所との連携

（３）相談支援事業

担当：竹下太

■活動内容
・福祉サービスの利用援助（情報提供、相談など）
・社会資源を活用への支援（各種支援施策に関する助言・指導など）
・社会生活力を高めるための支援
・専門機関への紹介

【１】薬剤課

文責：薬剤課　課長　守　秀夫

＜基本方針＞

- 薬剤に関する情報提供を積極的に行います。
- チーム医療の一員として、個々の患者さんに適した薬物治療を考えます。
- 医薬品の適正使用を推進します。

＜活動内容＞

１．病棟業務として、調剤・鑑査・薬剤の管理（救急カートなど）・服薬指導・全入院患者を対象とした持参薬の鑑別
２．外来業務として、調剤・鑑査・投薬・薬剤の管理（救急カートなど）
３．カトレア業務として、調剤・鑑査・退所指導の作成
４．院内外からの薬剤に関する問い合わせへの対応
５．薬剤に関する勉強会への積極的な参加および部署内での知識の共有

＜業績＞

１．外来処方箋枚数・・・・・平均　　400 枚／月
２．入院処方箋枚数・・・・・平均　2101 枚／月
３．カトレア処方箋枚数・・・平均　　304 枚／月

【２】検査課

文責：検査課　課長　村瀬　朗

＜基本方針＞

- 初めて検査される方や何度か検査をされている方でも、安心して検査を受けられリハビリテーションに専念できるような環境作りに心がけ、患者さんに優しい検査室を目指します。また常に迅速なデータが提供できるよう努めます。

＜活動内容＞

患者さんの検査について検体処理から検査実施や報告、生理検査の予約から検査実施（検査医によるものもあり）やデータ管理までを行っている。また、院内感染対策委員会や NST 委員会などに情報として必要なデータをわかりやすくまとめて提出した。

ボトックス治療にエコー担当として参加した。

今年度は９月より新型コロナウイルス感染症の拡大を防止するため、院内でも PCR 検査を実施できる体制をとり迅速に報告を行った。

業務内容

１．院内検体検査：血球検査、尿一般検査、便潜血、血液ガス、輸血関係、皮膚等鏡検など

２．外注検査：生化学、細菌検査、細胞診、骨塩定量、ホルター心電図など）

３．生理検査（心電図、エコー、ＡＢＩなど）

※ エコーについては、頚部・下肢血管、腹部を検査医が施行し、心臓は検査技師にて迅速に結果を報告

＜業績＞

１．検体検査

生化学 4,020 件、血球検査 2,810 件、尿検査 1,720 件、便検査 180 件

細菌・真菌検査 410 件、

２．生理検査

心電図検査 890 件、エコー検査(心臓 80 件、頚部 10 件、下肢静脈 20 件、腹部等 30 件)、ホルター心電図 40 件

※ 検査の件数は大凡の値

【３】放射線課

文責：放射線課　課長　坂口　龍子

＜基本方針＞

- 最低限の放射線量で最適な医療画像を提供するよう努力する。
- 個々の患者さんにとって最も有効で苦痛の少ない検査方法を検討し、検査を行う。
- 医療事故防止に細心の注意を払う。

＜活動内容＞

１．撮影業務（X 線一般撮影、X 線 CT 検査、VF 検査）
２．健診業務
３．画像管理業務（PACS への画像ﾃﾞｰﾀ読込み・書き出し・ディスク作製等）
４．委員会（Web）活動参加など

＜業績＞

年間件数（概算）

１．一般撮影	4,402 件
２．ポータブル撮影	4 件
３．VF 検査	33 件
４．CT 検査	624 件

【５】栄養課

文責：栄養課　八尋　玲

＜基本方針＞

- 入院患者さんの病状に応じて安全で適切な食事を提供し、病状回復の促進を図ります。
- 多職種と協力、連携を図り、チーム医療の一員として、栄養士の専門性を発揮します。
- 自己研鑽に努め、栄養と食事の専門職としての知識、精神のレベル向上を図ります。

＜活動内容＞

１．治療食対象者には特別食の提供、栄養補助食品の適正な提供
２．回復期リハビリテーション病棟入院料１である 3、5 病棟は管理栄養士専任対象者に入院時と退院時栄養指導・栄養情報提供を実施
３．コロナウイルス発生時の対応について見直しを実施
４．二次骨折予防のための骨折リエゾンサービス(FLS)への参画
５．食や栄養に関するコラムを院内に掲示
６．管理栄養士実習生受け入れ開始
　　西九州大学３年生　臨床栄養学　臨地実習　2023.3.13～3.24　１名

＜業績＞

１．栄養指導件数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
1 病棟	1		1		1	3	1	1	4	1	1	1	15
2 病棟	1		5		1	2	2	1	1		2	2	17
3 病棟	5	5	6	1	4			4	7	3	8	8	51
5 病棟	7	14	8	8	7	11	8	16	8	6	17	10	120
6 病棟	1	2	3	1	1	1	1	2	1	1	1	3	17
外来		1	2			1	2						7
合計	15	22	25	10	14	18	14	24	21	11	29	24	227

２．栄養情報提供件数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
3 病棟	2	1	3	1	1			2	4	1	3	3	21
5 病棟							8	6	5	2	6	8	35
合計	2	1	3	1	1		8	8	9	3	9	11	56

管　理　部

文責：管理部長　今村　洋一

<活動内容>

2022 年度も、前年度に引き続き新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、入院制限や各施設の一時閉鎖を行なわざるをえない状況が発生し、厳しい運営を余儀なくされたが、各部署間の協力により前年度比若干の減収に留めることができた。しかしながら、医療材料・薬剤などのコロナ関連原価・感染対策の費用・光熱費の値上がり・人材募集費の増加などにより大幅な経費の増加が見られ、最終的には、経常利益については前年度比減益となった。

また、従来から進めている新病院の建設計画については、建設予定地(病院正面の駐車場)の整備が 2023 年 3 月に開始され、6 月には着工の予定となっている。

今後とも、誠愛の理念に基づくよりよい医療を提供するために、「すべては患者さんのために」との意識を管理部全員で共有し、一人ひとりのレベルアップを目指して日々の業務に当たりたい。

【１】　経理課・総務課・人事課

文責：人事課　課長　高見　愛

＜基本方針＞

- 法令遵守を基本とした正確迅速な業務遂行
- 患者さんをサポートする迅速丁寧な行動力

＜活動内容＞

１．経理課：　現金、預金出納業務、会計業務、財務業務
２．総務課：　①庶務係　書類管理業務、消耗品・備品管理業務、
　　設備・車両管理
　　②送迎係　通所リハ利用者・外来患者送迎業務
　　③託児所　職員の乳幼児保育業務
３．人事課：　職員の労務管理業務、社会保険手続業務、給与計算業務

【２】医事課

文責：医事課　課長　古賀　昭臣

＜基本方針＞

- 患者さんに満足いただける接遇、環境管理
- 知識、技術向上に努め、質の高い請求業務
- 患者さんの人権を尊重した個人情報の保護管理

＜業績＞

１．患者数と請求業務について

患者延人数は、外来患者は延 22,122 名で前年度と比べ 815 名減少した。外来患者数減少の要因として、昨年度は、新型コロナウイルスの流行により、小児の患者さんをマスク着用出来る子のみに限定したことが考えられる。

入院患者は延 60,451 名で前年度と比べ 652 名減少した。入院患者数減少の要因として、新型コロナウイルスの大流行が考えられる。入院の病床稼働率は 81.6％で前年度よりも 0.4％上昇した。

また月１回開催される誤差返戻会議で減点理由を検討し、今年度の請求に対しての減額率は約 0.033%であった。前年度より 0.016％増加している。増加の要因として、新型コロナウイルスに関しての請求で、検査判断料等は、特定入院料算定後の同一月内には算定不可との理由で減点が多かった。

２．入院中の患者さんの他医受診について

前年度に引き続き請求点数と入院料の減算点数を比較し、入院料の減算を行うか当院へ全額自費請求を行うかを検討し返答している。また、当院に採用薬のある処方があった場合、主治医へ確認し当院で処方してもらうようにしている。

患者動向

平均在院患者数

新入院患者数

患者延べ人数

入院患者稼働率

病棟別入院・転入患者数

病棟別退院・転出患者数

入院患者　ＩＣＤ-10 分類別

退院患者　ＩＣＤ-10 分類別

ＩＣＤ-10 別退院患者平均年齢

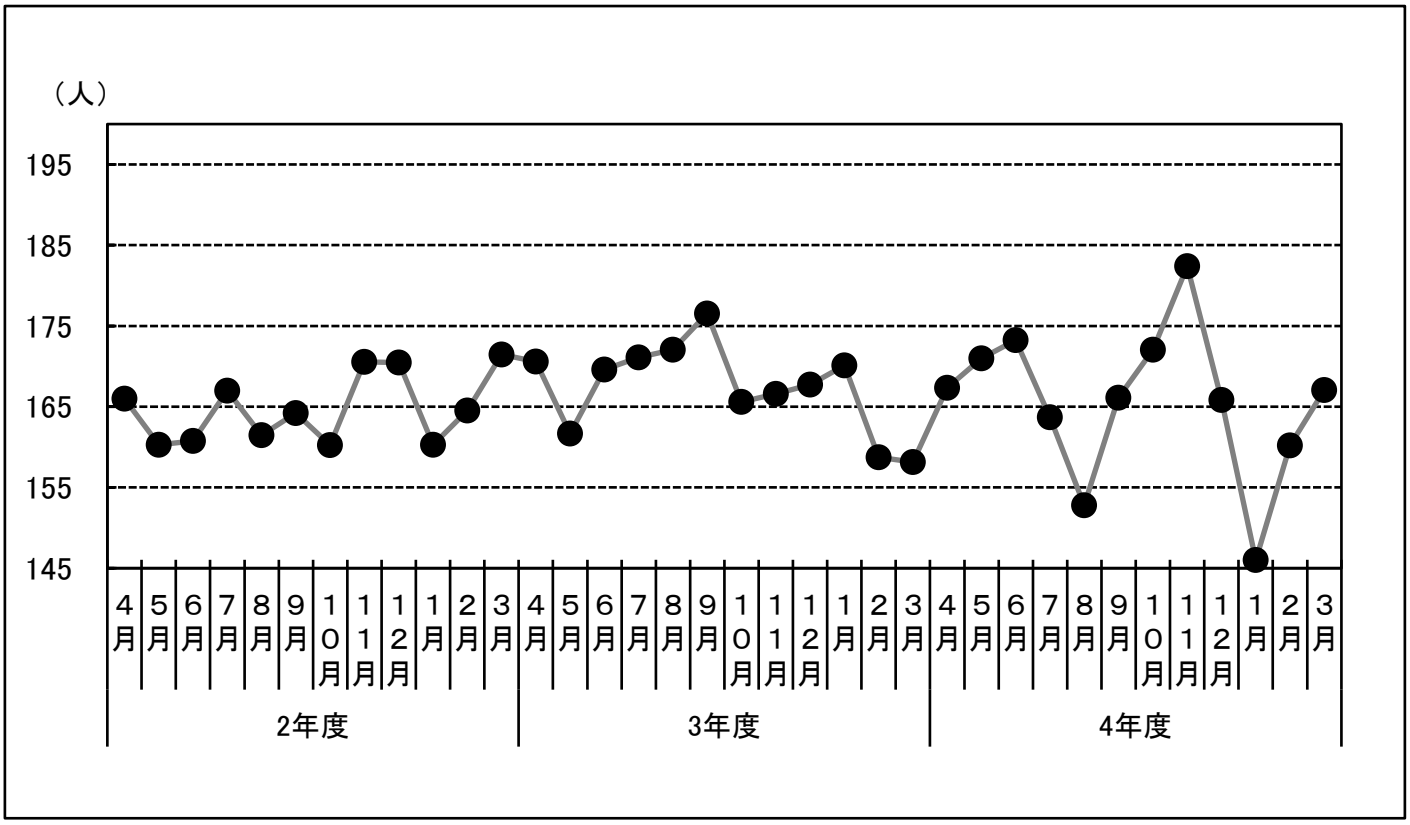
ＩＣＤ-10 別平均在院日数

外来平均患者数

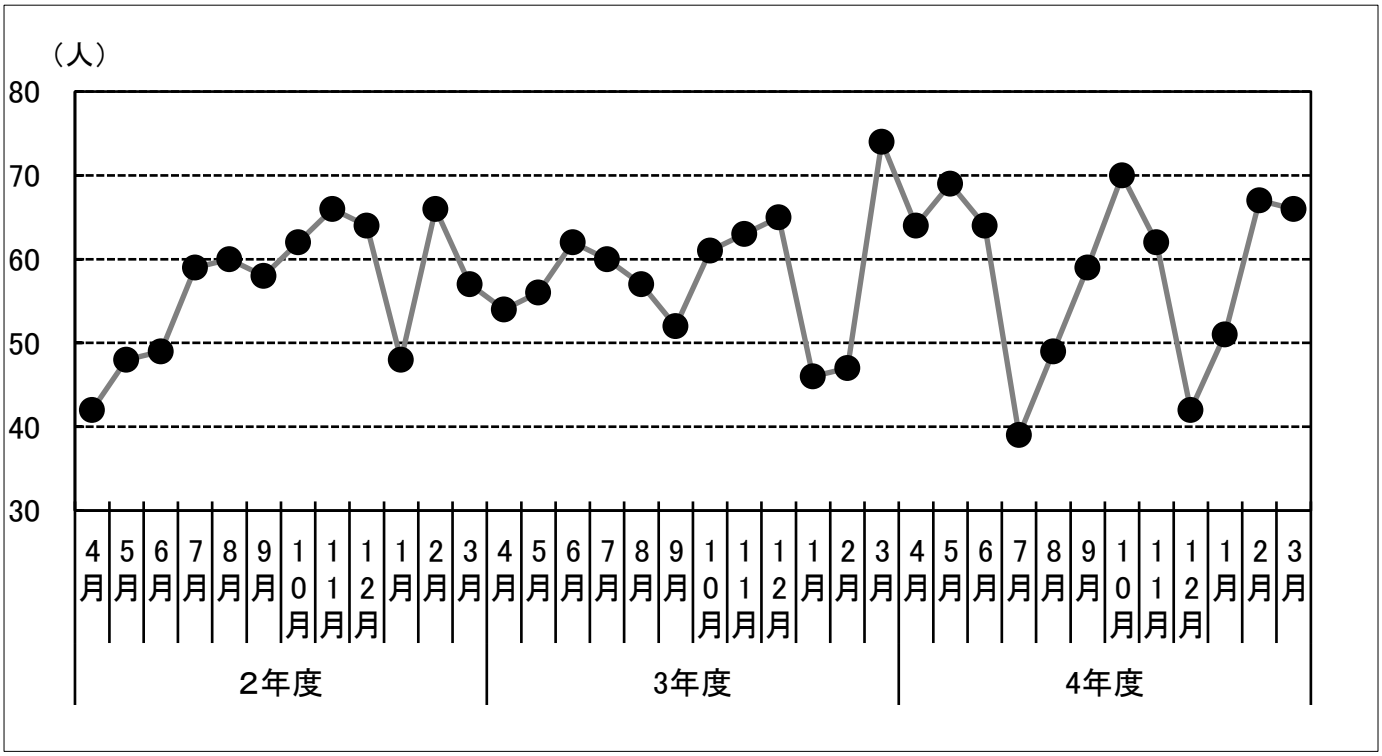
外来初診患者数

外来患者延べ人数

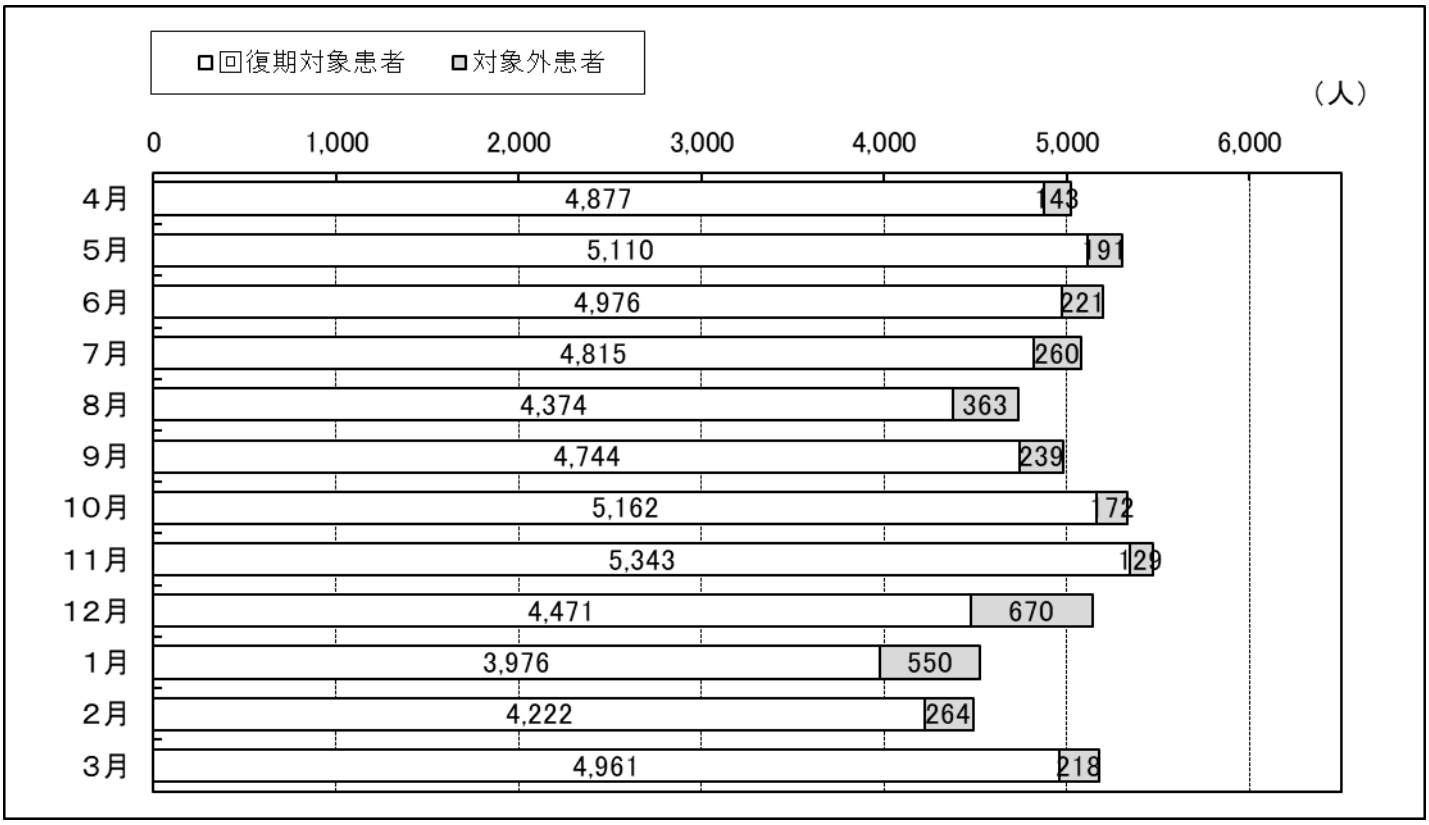
平均在院患者数



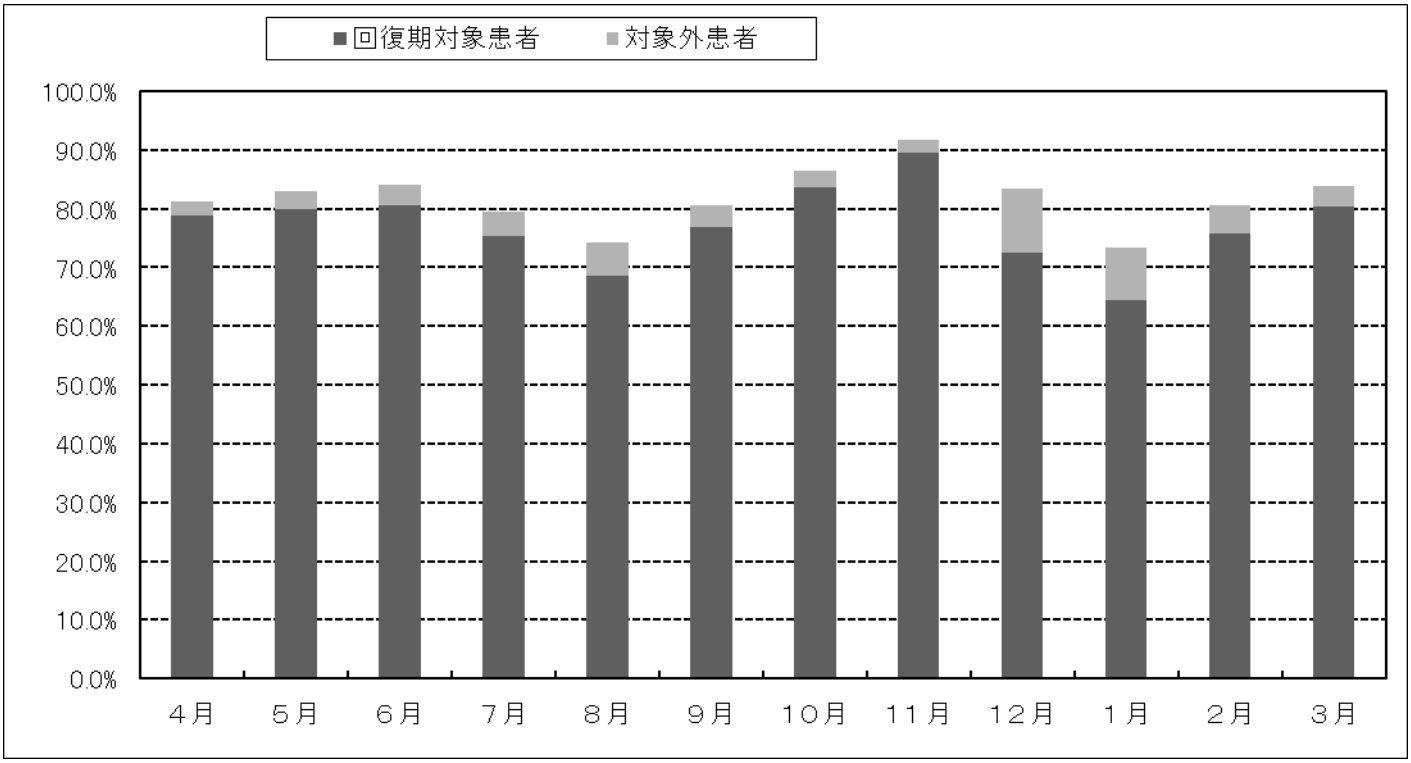
新入院患者数



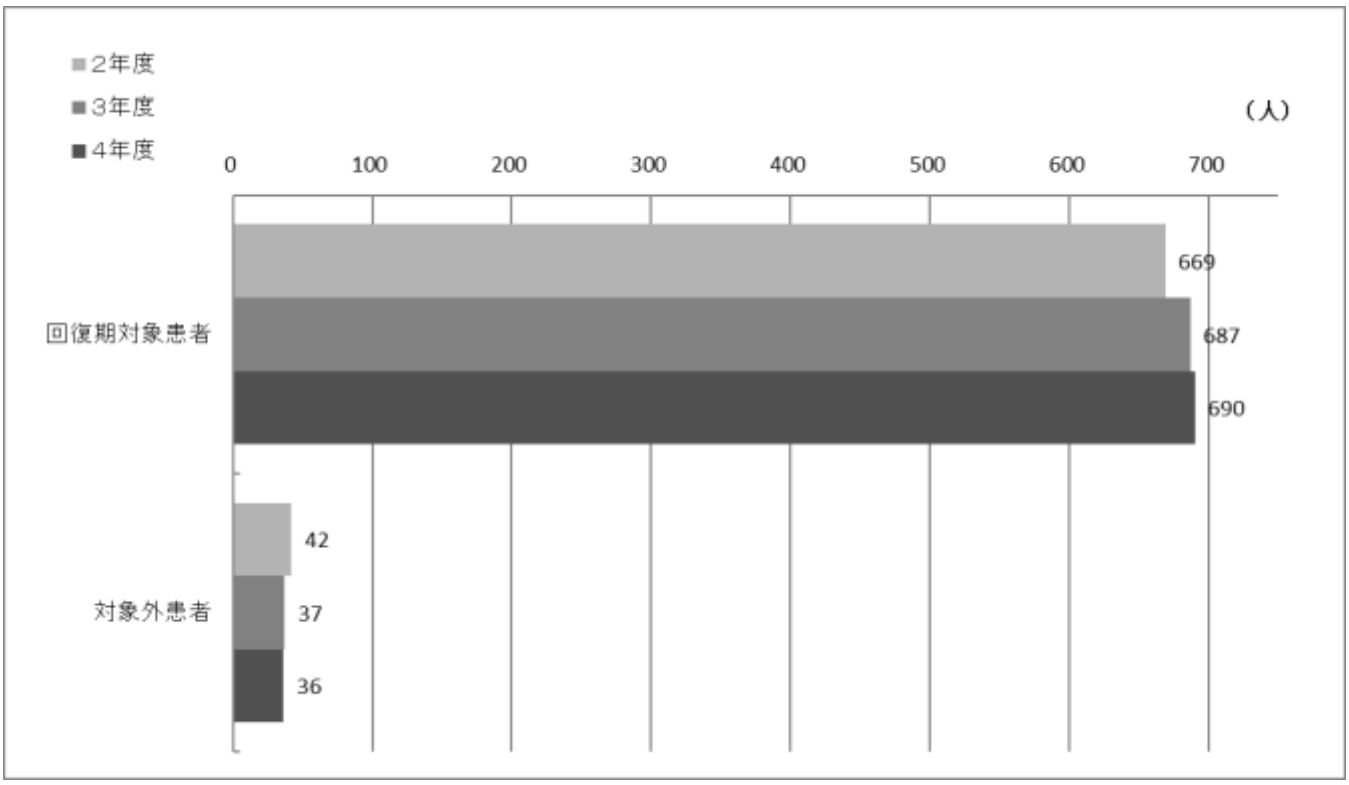
患者延べ人数



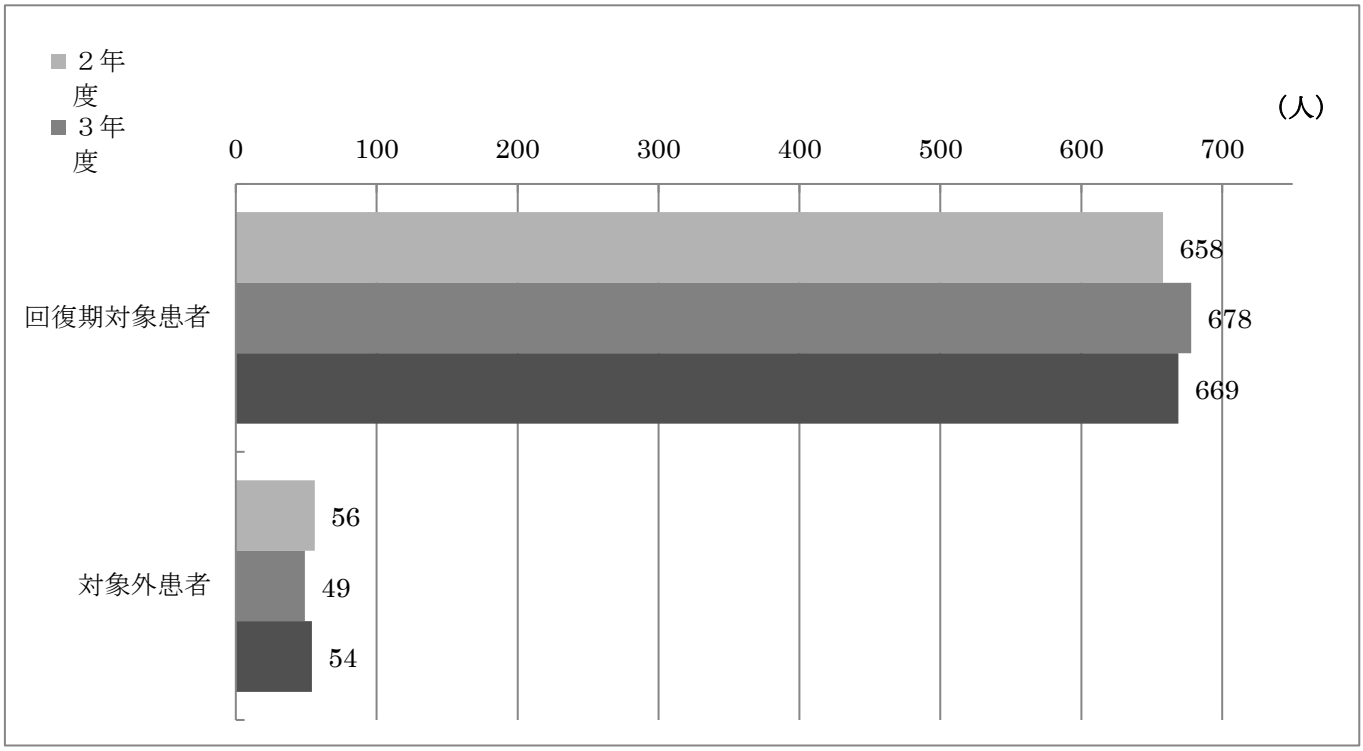
入院患者稼働率



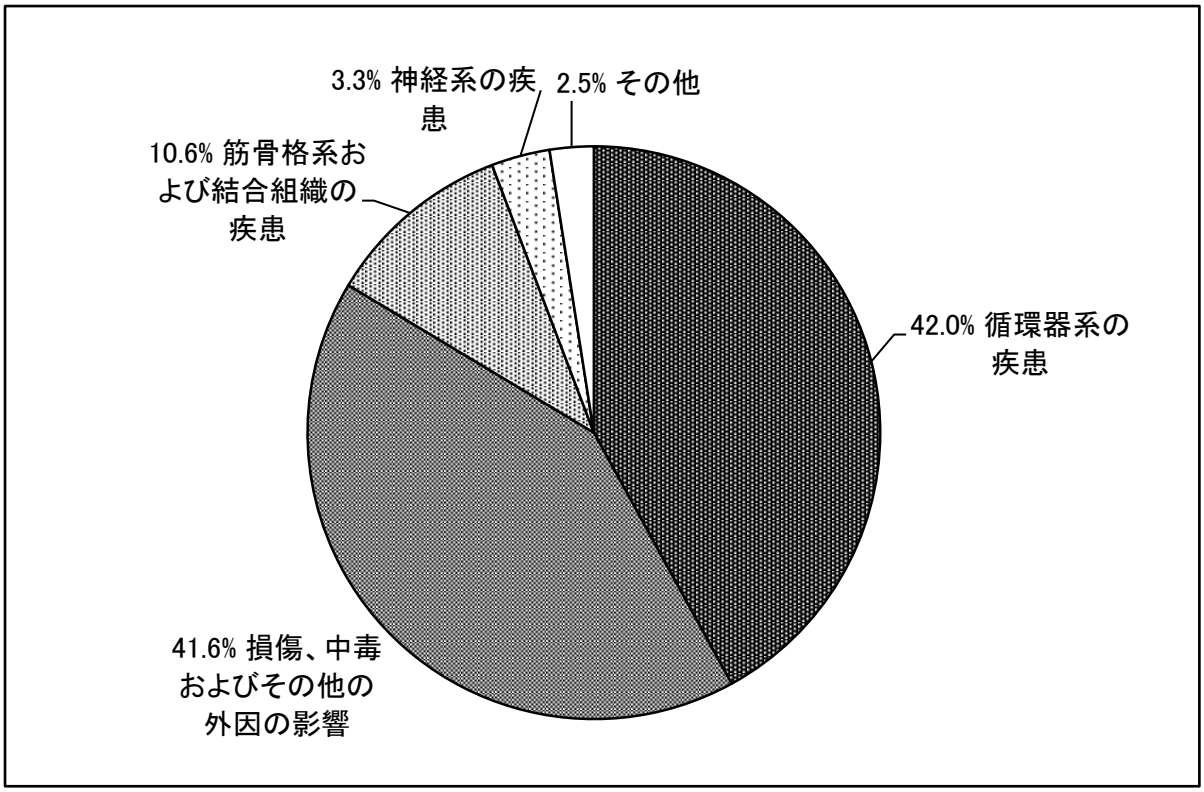
病棟別入院・転入患者数



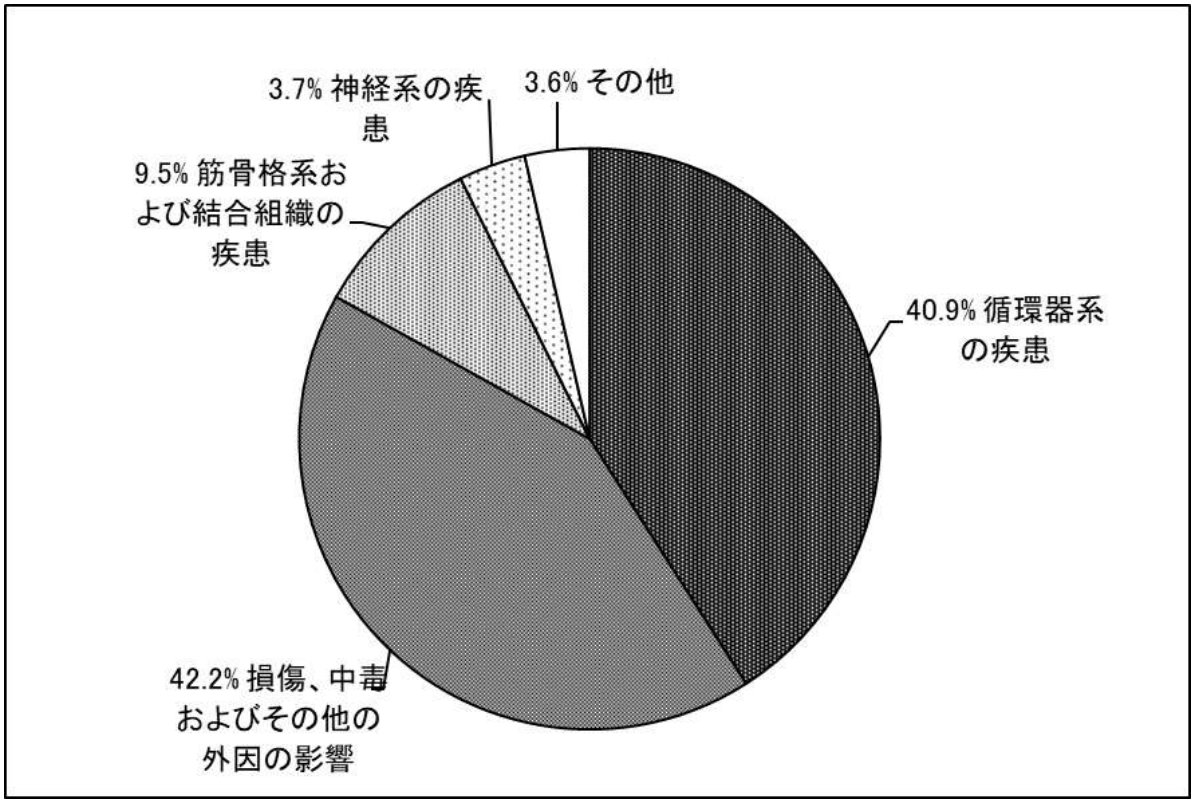
病棟別退院・転出患者数



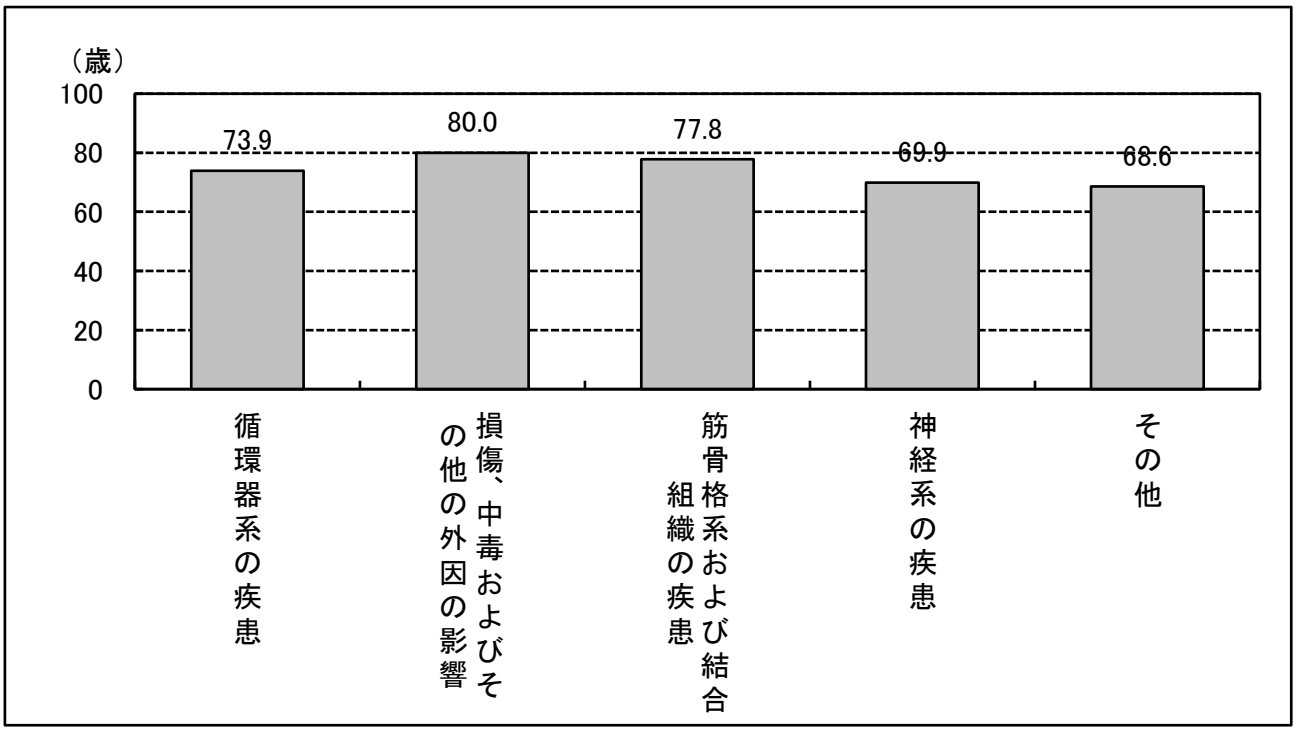
令和４年度入院患者　ICD-10 分類別



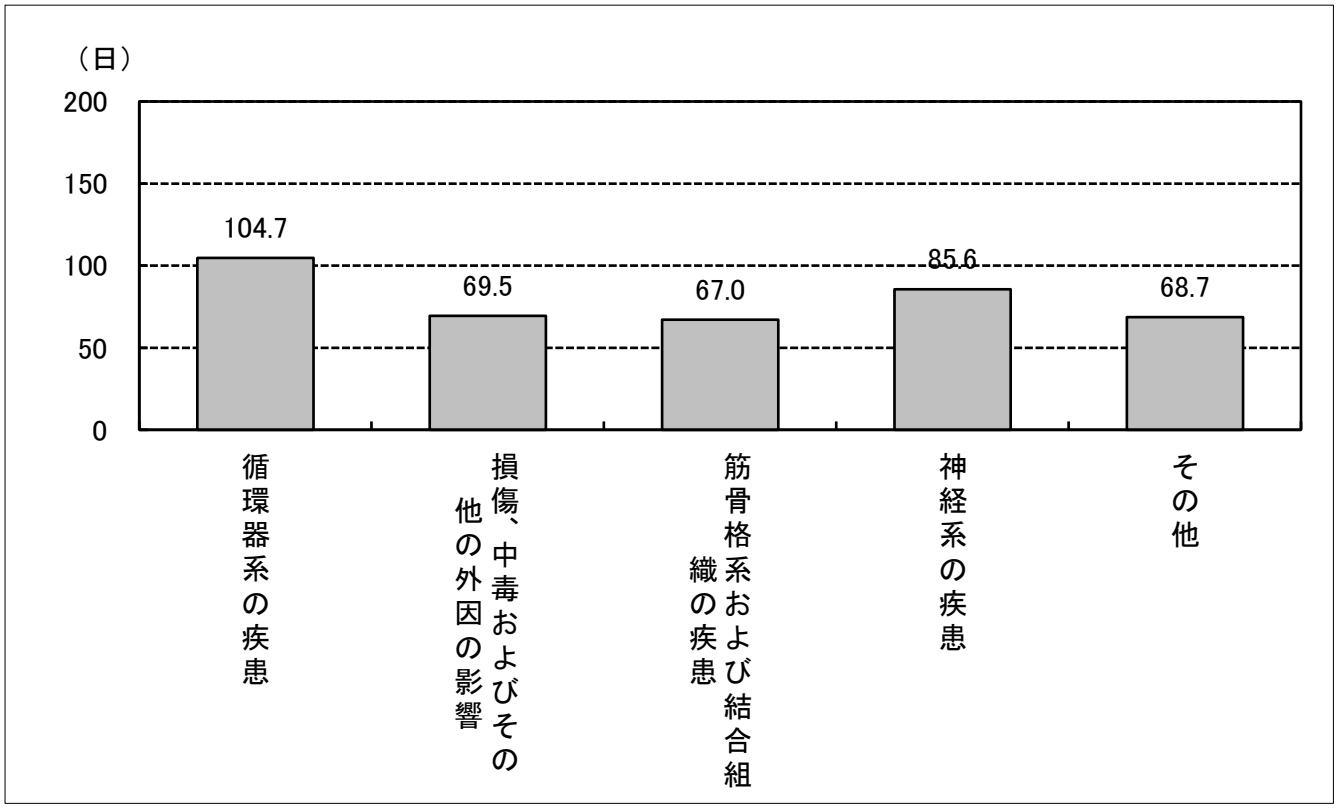
令和４年度退院患者　ICD-10 分類別



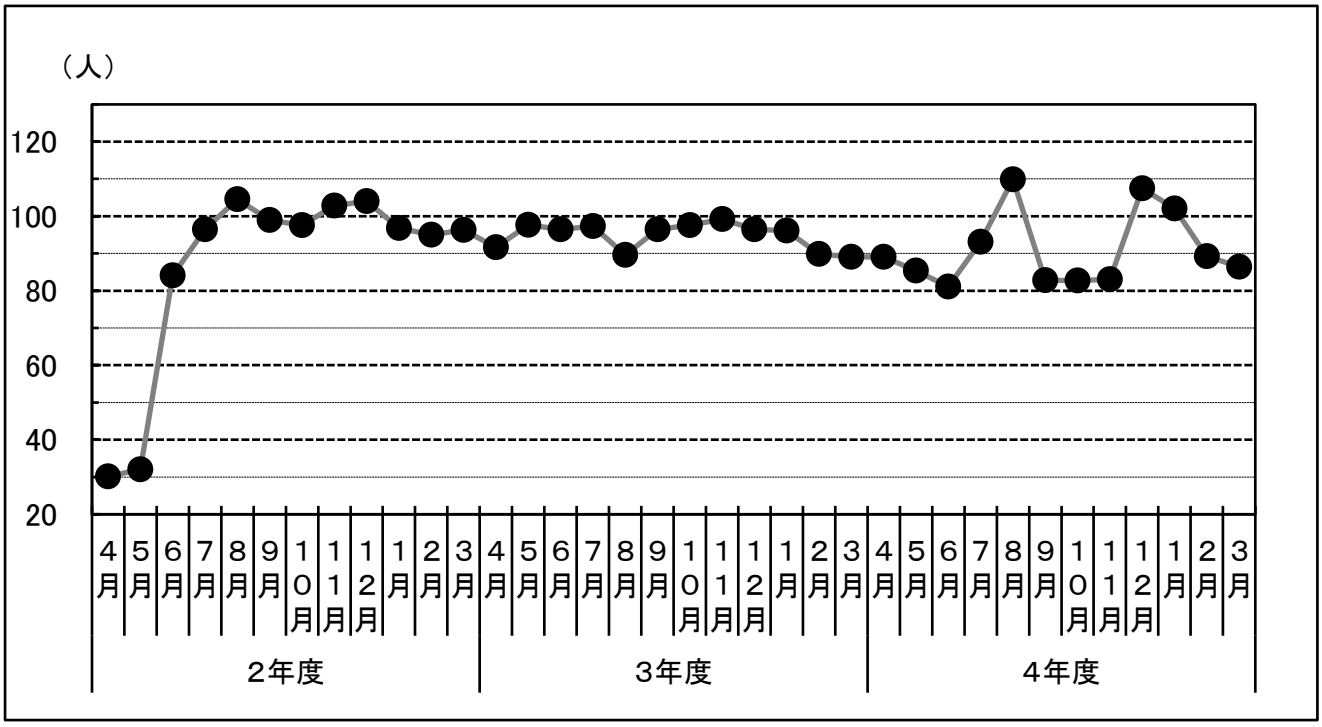
ICD-10 別退院患者平均年齢



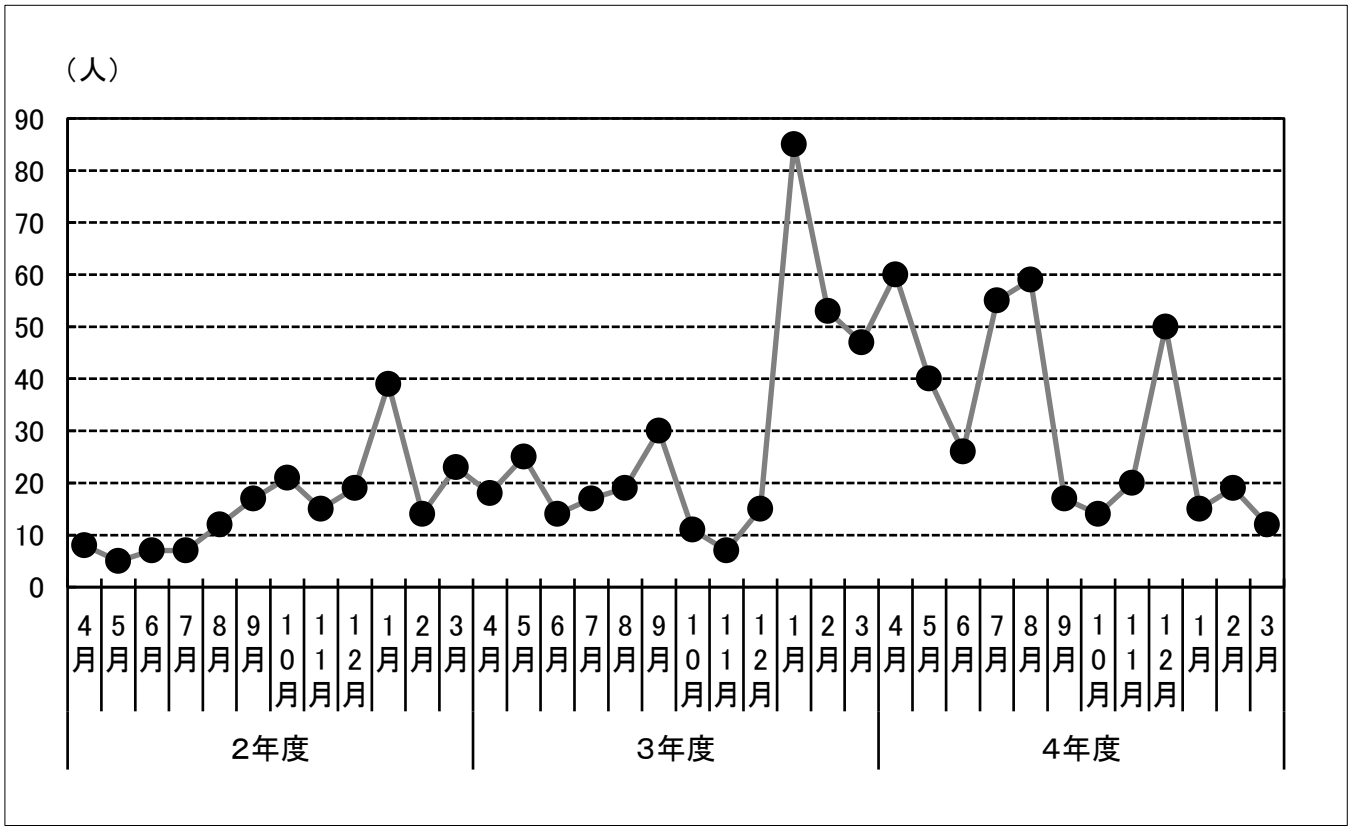
ICD-10 別退院患者平均在院日数



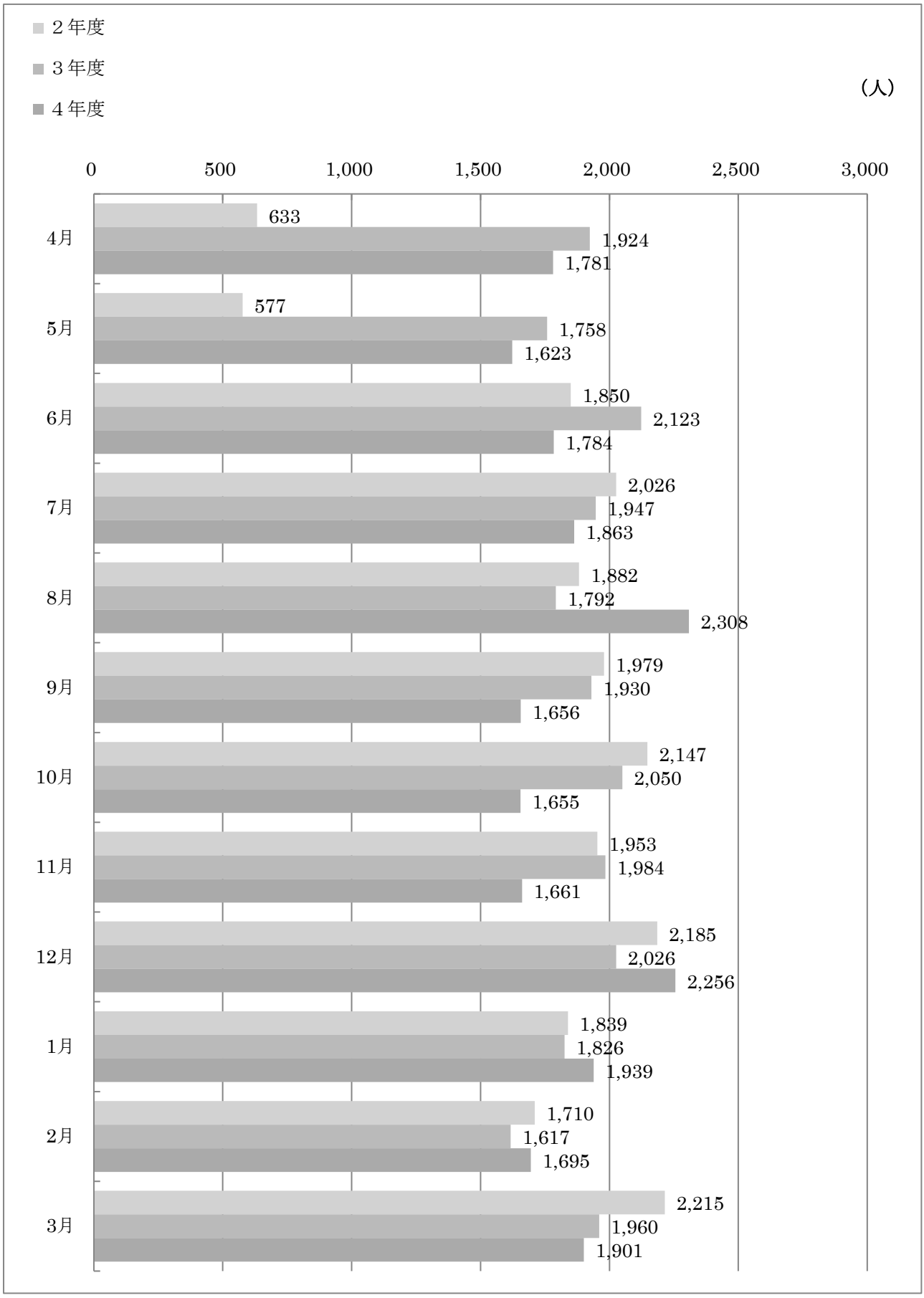
平均外来患者数



外来初診患者数



外来患者延べ人数


２年度
３年度
４年度
（人）
0
500
1,000
1,500
2,000
2,500
3,000
4月
633
1,924
1,781
5月
577
1,758
1,623
6月
1,850
2,123
1,784
7月
2,026
1,947
1,863
8月
1,882
1,792
2,308
9月
1,979
1,930
1,656
10月
2,147
2,050
1,655
11月
1,953
1,984
1,661
12月
2,185
2,026
2,256
1月
1,839
1,826
1,939
2月
1,710
1,617
1,695
3月
2,215
1,960
1,901

委員会活動

医療安全管理委員会

事故対策委員会

医薬品安全管理委員会

医療機器安全管理委員会

院内感染対策委員会

防災委員会

医療ガス安全委員会

労働安全衛生委員会

公用車運行管理委員会

個人情報保護委員会

薬事委員会

給食委員会

摂食嚥下チーム（ＥＳＴ）

カルテ開示委員会

倫理委員会

褥瘡対策委員会

図書管理委員会

広報委員会

サービス向上委員会

輸血療法委員会

Nutrition　Support　Team（ＮＳＴ）委員会

フットケアチーム（ＦＣＴ）

認知症ケアチーム（ＤＣＴ）

排泄ケアチーム（ＣＳＴ）

医療安全管理委員会

文責：管理部長　今村洋一

委員会開催日：毎月第１木曜日(Web 開催)
2022 年　4/7, 5/12, 6/2, 7/7, 8/4, 9/1, 10/7, 11/10,12/1
2023 年　1/5,2/2,3/2

構成メンバー：院長(委員長)、医局１名、看護部２名、リハビリ部２名
福祉部１名、管理部３名、診療部２名　　計 12 名

目的：
院内感染対策委員会・事故対策委員会(医薬品安全管理委員会、医療機器安全管理委員会)・医療ガス安全管理委員会・防災委員会を統括し、医療安全にかかわる体制の確保及び安全性の向上に努めている。

活動内容:
年度の業務改善計画を策定し、その項目毎に改善を実施し、評価を行っている。
また、毎週火曜日、医療安全のカンファレンスを開催し、随時、医療安全の改善・向上に努めている。
職員への啓蒙活動としては、医療安全管理の研修会を年４回開催している。
本年度も、院内感染対策について２回、事故対策についても２回に分けて行った。

結果:
本年度も、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために様々な感染対策を実施した。

職員向け研修会
院内感染対策委員会
第１回
日 時 ： 2022 年 11 月 30 日　アンケート方式
講 師 ： 医師・院内感染対策委員会委員長　石松　義弘
テーマ:「オミクロン株対応ワクチンについて　現時点で分かっていること」

第２回
日 時 ： 2023 年 3 月 17 日　アンケート方式
講 師 ： 医師・院内感染対策委員会委員長　石松　義弘
テーマ:「食中毒の知識と予防について」

事故対策委員会

第１回

日 時 ： 2022 年 11 月 30 日　アンケート方式

講 師 ： 診療部薬剤課 課長　守　秀夫

テーマ ：「令和 4 年度　医薬品安全管理研修会」

講 師 ： 診療部放射線課　課長　坂口　龍子

テーマ ：「診療放射線の安全利用についての研修」

講 師 ： 管理部　次長　大庭　慎也

テーマ: 「医療ガス安全講習会」

第２回

日 時 ： 2023 年 3 月 17 日　アンケート方式

講 師 ： 看護部　副院長　金山　萬紀子

テーマ ：「事故防止対策(看護部報告)」

講 師 ： リハビリテーション部　副院長　飛永　浩一朗

テーマ ：「事故防止対策(リハビリテーション部報告)」

講 師 ： 通所リハビリテーション誠愛　課長　古賀　孝治

テーマ ：「事故防止対策報告(通所リハビリテーション誠愛報告)」

※要旨については、それぞれの委員会記録に記載、当院ホームページにも記載している

事故対策委員会

文責：副院長（看護部）　金山萬紀子

委員会開催日：第１木曜日　13：00～　zoom 開催

平成４年　4/7，5/12，6/2，7/7，8/18，9/1,10/6，11/10，12/1　計９回

平成５年　1/5，2/2，3/2　計 ３回

構成メンバー：

院長（委員長）、医局 １名、看護部 ２名、リハビリテーション部 １名、福祉部１名、管理部５名、カトレア１名　計 13 名

活動内容：

① 事故分析

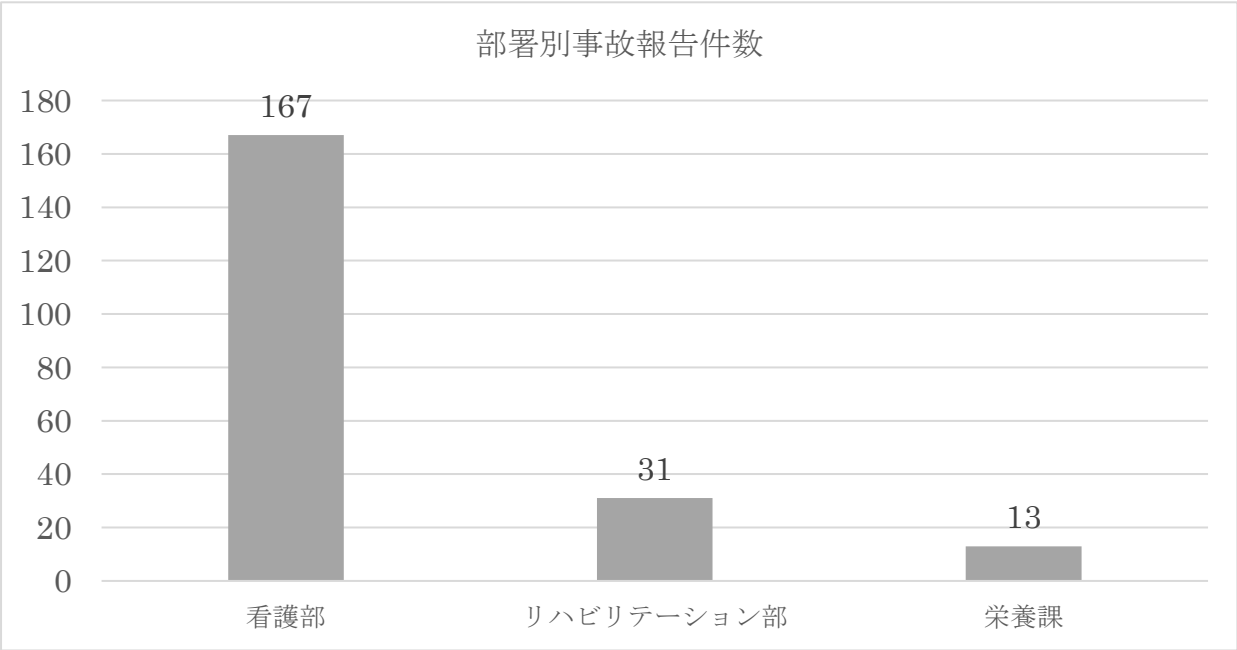
ヒヤリハット・事故報告書を集計し、個々の事例に対し改善策等を検討。

② 医療安全研修会

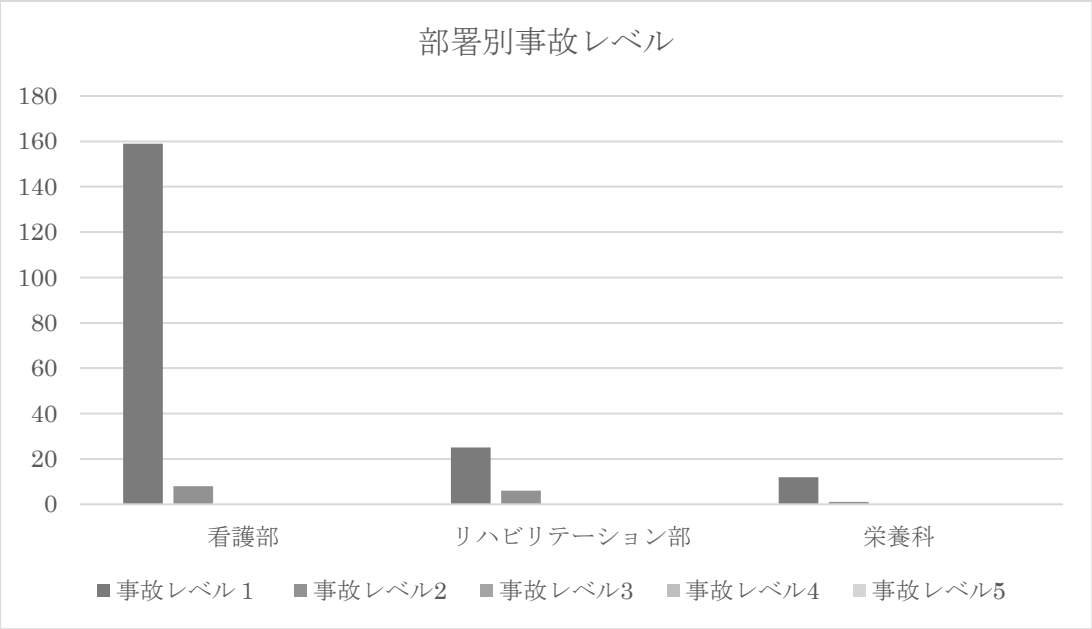
本年度は、2022 年 11 月 30 日、2023 年 3 月 17 日に院内･併設関連施設 11 部署による web 研修会を開催。。

結果：

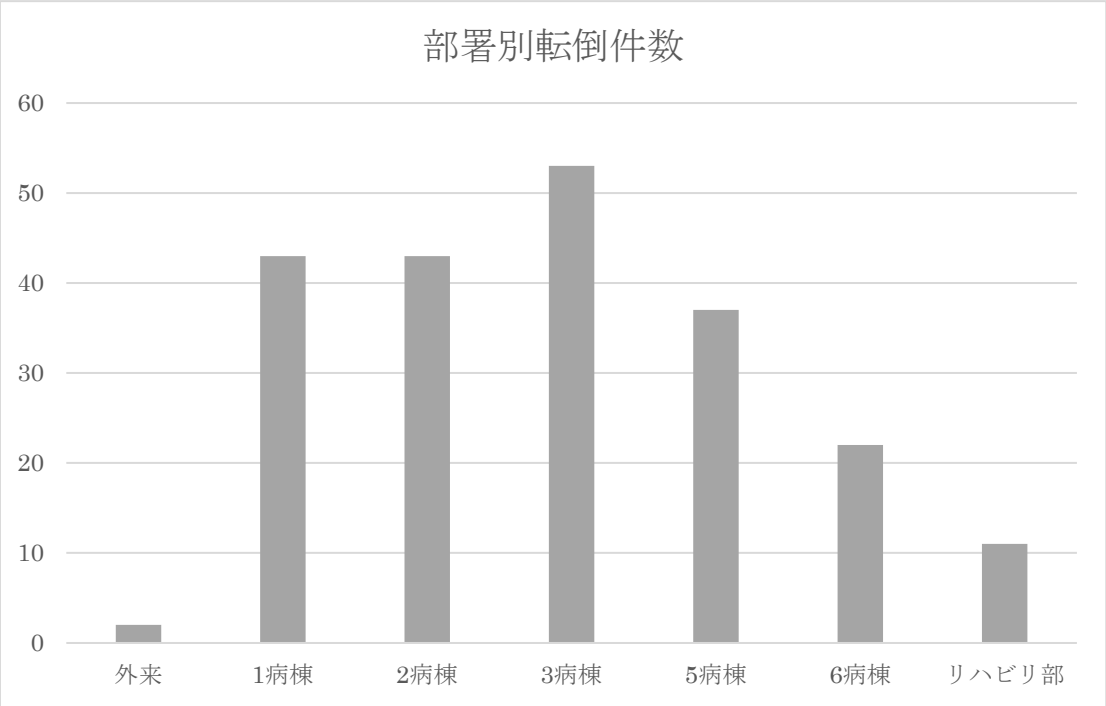
事故報告集計



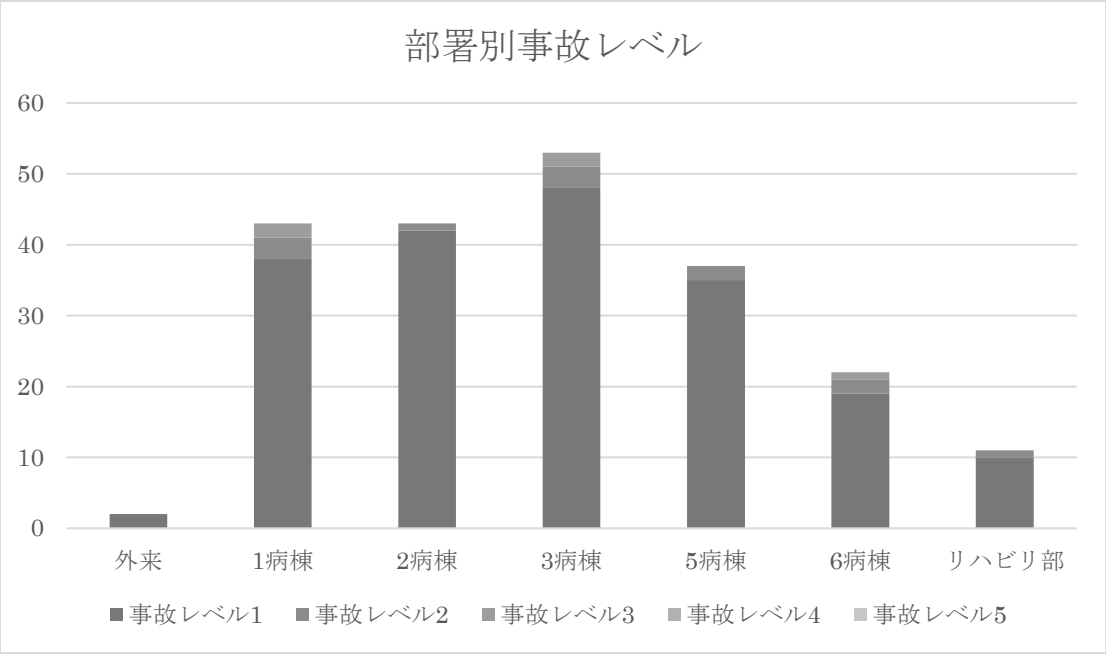
事故レベル



転倒報告書集計



事故レベル（転倒）



転倒によるレベル 3 以上の事故は 6 件であった（大腿骨骨折 4 件、急性硬膜下血腫が 2 件）。

事故レベル

レベル	内容	インシデント/アクシデント	報告書
0	出来事は起きかけたが、患者には実施されなかった	インシデント	ヒヤリ・ハット報告
1	出来事は起こったが、患者には何の問題もなかった	インシデント	事故報告書
2	バイタルサインに変化はないが、観察強化や処置・検査の必要性が生じた	インシデント	事故報告書
3	バイタルサインに変化が生じ、濃厚な処置や治療が生じた	アクシデント	事故報告書
4	後遺症が残る可能性が生じた	アクシデント	事故報告書
5	死亡した	アクシデント	事故報告書

【研修会】:

第 1 回事故対策研修会

日時　　: 2021/11/18

場所　　: 院内 LAN

テーマ	発表者
・オミクロン株対応ワクチンについて現時点でわかっていること ・新型コロナ、季節性インフルエンザの同時流行に備えた対応 ・生後 6 ヶ月以上 5 歳未満への新型コロナワクチン接種に対する考え方 ・5～17 歳の小児への新型コロナワクチン接種に対する考え方	副院長、感染対策委員長 石松義弘
診療放射線の安全利用についての研修会	放射線課 坂口龍子
医療ガス安全講習会	検査課 村瀬　朗
従業者に対する医薬品の安全使用のための研修会	医薬品安全管理者 守　秀夫

第 2 回事故対策研修会

日時　　: 2022 年 2 月 25 日

場所　　: 院内 LAN

テーマ	発表者
食中毒	副院長、感染対策委員長 石松義弘
看護部事故報告のまとめ	看護部副院長 金山萬紀子
事故対策	リハビリテーション部副院長 飛永浩一朗
通所リハビリ 令和 4 年度転倒・ひやり	通所リハビリテーション　課長 古賀孝治

医薬品安全管理委員会

文責：薬剤課　課長　　守　秀夫

委員会開催日：毎月１回　第１木曜日

令和 ４年　4 / 12、5 / 10 、6 / 14 、7 / 12 、8 / 9 、9 / 13 、10 / 11 、11 / 8 、12 / 13

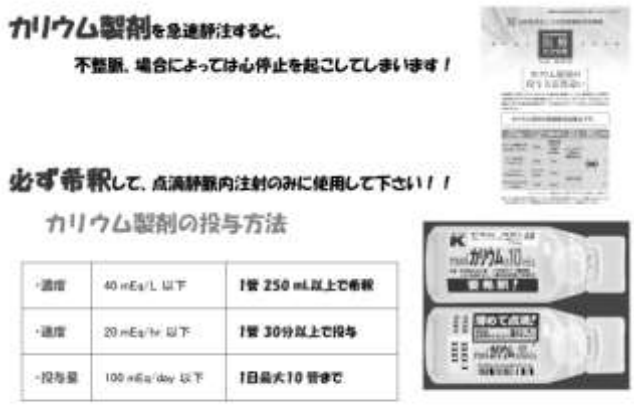
令和 ５年　1 / 10 、2 / 14 、3 / 14

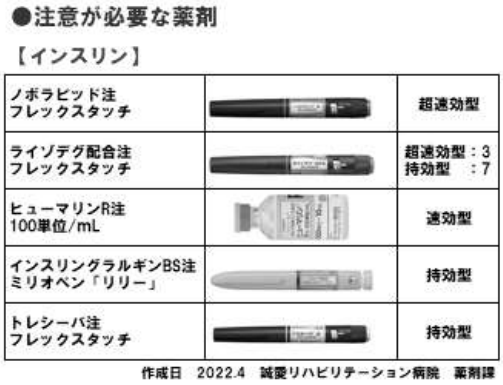
構成メンバー：院長（委員長)、医局１名、看護部２名、リハビリテーション部１名、診療部４名、管理部１名、カトレア１名、福祉部１名

計 12 名

活動内容：

- 使用上の注意の改訂情報の報告による、医薬品の適正使用の推進
- 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の見直し
- 医薬品の業務手順書に基づく業務実施の定期確認
- 従業者に対する研修の実施





医療機器安全管理委員会

文責：検査課　課長　村瀬　朗

委員会開催日：毎月第一木曜日　13：00～（事故対策委員会の中で開催）
令和 4 年　4/7、5/12、6/2、7/7、8/18、9/1、11/10、12/1
令和 5 年　1/5、2/2、3/2
今年度も昨年度と同様に新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から委員会はすべて web にて開催した。

構成メンバー：院長（委員長）、医局 1 名、看護部 2 名、リハビリテーション部 1 名、管理部 1 名、診療部 4 名、カトレア 1 名、福祉部 1 名
計 12 名

活動内容：
・医療機器の点検整備計画に従って各医療機器メーカーに点検の手配を行い、点検の実施を確認した。
・日本医療機能評価や医薬品医療機器総合機構等から出される「安全情報」の収集に努め委員会を通じて情報発信し注意喚起を行った。

研修会：
入職時オリエンテーション
令和４年４月４日（月）
・医療機器安全管理委員会について

院内感染対策委員会

文責：副院長　石松義弘

委員会開催日：毎月第２火曜日 13:40～
　令和４年(2021 年)　4/12、5/10、6/14、7/12、8/09、9/13、10/11、11/08、12/13、
　令和５年(2023 年)　1/10、　2/14、3/14

構成メンバー：
医局２名（院長、医局医師)、看護部７名（看護部長および各病棟および外来からそれぞれ１名)、管理部長、診療部３名(検査課１名、薬局１名、栄養課１名)、リハビリ部１名

計 14 名

活動内容：
院内感染の予防に留意し、感染流行発生の際には拡大防止のため、その原因の速やかな特定・制圧・終息を図る。このため、組織の有効活用と職員のマニュアルの遵守等を徹底し、院内感染対策に努める。

結果：
　令和４年度(2022 年度)は、インフルエンザと新型コロナウイルス感染症の同時流行の危険性が警告されていたが、幸い、インフルエンザの流行は限定的であり、当院でも罹患者の報告は４名のみであった。感染性胃腸炎の罹患者数は職員４名と散発例のみであった。また、流行性角結膜炎は職員１名が家族内で感染したが、院内での流行は見られなかった。薬剤耐性菌に関しては、以前と同様に、MRSA、緑膿菌、耐性大腸菌などの一定数の持ち込みが認められたが、院内で流行することはなかった。新型コロナウイルス感染症対策を実施していることも影響していたのか、これ以外の院内感染が問題になることはなかった。
　また、本年度も、医療安全管理の全職員向け研修会として、院内感染対策講習会が資料提示とアンケート方式により開催された。令和３年 11 月 28 日に「新型コロナウイルスと季節性インフルエンザの同時流行に備えた対応」等の資料を使い、また、令和５年３月 25 日には、「食中毒」をテーマに研修会を実施した。

　令和元年(2019 年)12 月末より中国武漢市で発生した新型コロナウイルス感染症(COVID-19)が世界的大流行となり、日本での第１例が令和２年(2020 年)１月、福岡県の第１例が令和２年２月に見つかり、日本全国へと広がった。大規模な流行となるとともに、深刻な院内感染を引き起こして多数の死者を出したため、当院でも厳重な院内感染対策を実施した。
(1)新型コロナウイルス感染症の全国での流行の程度に応じて、当院の院内感染対策を計画して実行した。
(2)外部から新型コロナウイルスが侵入する危険性をできるだけ減らす方策を実施する

と共に、院内に侵入しても大きな院内感染に拡大しないように予防対策を実施した。早期の報告、早期の検査と隔離を実施し、リスク低減に努力した。

(3)院内で流行する危険性に備えて、個人防護具、病室配置、環境整備、職員の配置変更、職員訓練等を実施した。

(4)更に、院内感染対策回診(ICT ラウンド)を定期的に実施した。毎週、各病棟でチェックリストをもとに感染対策委員会メンバーが見回りを実施した。

以上のような対策を実施していたが、2020 年度(令和 2 年度)に、当院の職員経由での新型コロナウイルス感染症の院内流行を認め、職員 3 名と入院患者 2 名の感染を確認し、院内クラスター(5 名)となった。2021 年度(令和 3 年度)は、病院内での新型コロナウイルス感染症の散発例が 3 回あったものの、院内クラスターになることはなかった。また、職員や家族に、少しでも健康上の異常がある場合には、早期に検査を実施して、早期に隔離をすることで、院内に感染が広がることを防いだが、このような例が、第 6 波だけでも数十例あった。

しかし、今年度 2022 年度(令和 4 年度)は、夏の第 7 波と冬の第 8 波で、病院内で大規模なクラスターとなり、多数の入院患者さんと職員が新型コロナウイルスに感染して、長期間にわたる病院機能の停止を余儀なくされた。病院の全ての部署の職員が協力して、感染対策と患者さんの治療と介護に尽力した。院内感染の拡大予防と、感染してしまった患者さんが重症化しないための早期治療と介護に最大限の努力をはらった結果、死亡例は出さずに済んだが、同時に、長期の隔離を余儀なくされたことで、廃用症候群をきたした患者さんが多数おられたことは深く反省しなければならない。院内で流行した際の感染拡大予防のための隔離対策と、リハビリテーション病院としての患者さんの機能向上のためのリハビリテーション実施との間で、対応に苦慮する状態が続き、職員や患者さんに不安と混乱をきたしたことを、院内感染対策委員会として強く反省しなければならないし、今後の大きな課題である。また、通所リハビリテーションや外来リハビリテーションの患者さんにも、リハビリができない期間があり、ご迷惑をおかけしたことも反省すべき点である。

新型コロナウイルス感染症は、2023 年 5 月から、政策上の第 5 類の感染症となるが、ウイルスは変異を続けており、状況は変化し続けており、今後の展望を見通すことは困難である。今後の流行において、どのような対策を行い、感染拡大予防対策を行いつつ、入院や外来の患者さんにリハビリテーションを継続して実施していくことができるのか、状況に応じた適切な対策を検討して実行して行く必要がある。答えのない課題であるが職員全員で一致協力していくことが重要である。

防災委員会

文責：管理部　次長　大庭慎也

委員会開催日：必要に応じ随時
　　令和４年　5/23・11/28

構成メンバー：院長（委員長）、管理部３名
　　計４名

活動内容：
火災通報・消火・避難訓練の計画を立案し、その実施を行う。
令和４年度の第１回目として資料配布による消防に関する情報共有を行った。
令和４年度の第２回目として資料配布による消防に関する情報共有を行った。
その他、毎月１回の消防用設備点検の実施を行っている。

結果：
第１回
　日　　時：　令和４年５月 23 日
　訓練内容：　消火・通報及び避難誘導訓練の資料を全職員に配布し、消防に関する情報を共有した。

第２回
　日　　時：　令和４年 11 月 28 日
　訓練内容：　消火・通報及び避難誘導訓練の資料を全職員に配布し、消防に関する情報を共有した。

医療ガス安全委員会

文責：管理部　次長　大庭慎也

委員会開催日：年１回
　　令和４年　8/9

構成メンバー：院長（委員長）、看護部８名、管理部２名、薬局１名
計 12 名

活動内容：医療ガスの保守点検

結果：
①毎日の点検は各病棟で実施している。
②医療ガス機械室については、総務課にて毎日の点検を実施し、
記録を残している。
③令和４年６月 24 日に医療ガス設備の保守点検（9 カ月）を実施。
（業者）　株式会社　朝日酸素商会
（点検結果）　・アウトレット部門のパッキン等を交換
・他は特に異常なし
④令和３年度の質疑・要望にでた問題点の結果報告
（要望）　・特になし。
⑤今後の要望
・特になし。

労働安全衛生委員会

文責：人事課　課長　高見　愛

委員会開催日：

毎月　　第１週火曜日　13：00～13：15
令和４年　（ＷＥＢ）　4/5、 5/10、 6/7、 7/5、 8/2、9/6、10/4、11/1、12/6
令和７年　（ＷＥＢ）　1/10、 2/7、 3/7

12 回開催

構成メンバー：

委員長	統括管理者　１名
産業医	１名
衛生管理者	３名
施設管理者	誠愛リハビリテーション病院　１名
	介護老人保健施設カトレア　１名
	訪問看護ステーション誠愛　１名
	居宅支援事業所カトレア　１名
職員代表	看護部　１名、リハビリテーション部　２名、
	福祉部　１名、診療部　１名、管理部　２名、カトレア　１名

計 16 名

活動内容：

労働安全衛生法　第 19 条に基づき、労働災害ゼロ、職員のための快適な職場環境維持の推進、健康増進の推進を目的に活動している。

結　　果：

①年度初に年間安全活動計画を立案し、計画に基づき実施。
②毎月、会議において前月発生した業務上災害等の報告、予防対策の検討等。
③安全かつ衛生的な職場環境の維持増進のため、チェックリストに基づき、衛生管理者は毎月職場の巡視を徹底。
④雇入時健康診断及び定期健康診断の結果に基づくフォローアップの徹底。
⑤長時間労働による健康障害防止を図るための対策。
⑥ストレスチェックの実施に関する審議。

公用車運行管理委員会

文責：総務課　課長　広松健志

委員会開催日：月１回（第１週の金曜日）12:50～13:15
コロナウイルス感染症予防の為、令和４年度は未開催。

構成メンバー：管理部・リハビリ部・福祉部・訪問看護・カトレア・居宅より
各１名
計６名

活動内容：公用車の運行管理・保守および公用車における交通事故防止に関する協議を行う。

活動結果：（1）公用車の運行管理・保守
①運転日報を精査する。
②公用車の定期点検の打合せ及び車輌入替えの報告をする。
③アルコール測定器の導入に伴い、運用を各部署に伝達する。
④公用車が故障した場合の対処方法を打合せ各部署に伝達する。

（2）交通事故等の未然防止策の協議
①事故報告を基に再発防止策を協議し各部署に伝達する。
②交通違反の事例を基に未然対策を協議し各部署に伝達する。
③交通事故発生時の対処マニュアルを作成し各部署に伝達する。
④安全運転に関する説明及び議論を行ない各部署に伝達する。

個人情報保護委員会

文責：管理部長　今村洋一

委員会開催日：随時
　　令和３年度　4/1

構成メンバー：
　　管理部長(委員長)、看護部１名、リハビリ部１名
　　管理部４名、カトレア１名
　　計 8 名

活動内容：
「個人情報保護に関する基本方針」に基づき医療情報の管理と、患者さんの個人情報保護を厳重に行うため、諸規程の整備・職員教育等を行っている。

結果：
第１回
　開催日　：2022 年４月１日
　場　所　：研修室
　活動内容: 新入職員に対する入職時研修(スライドによる説明)
　　本年度入職の職員に対して個人情報・情報漏洩対策についてのオリンテーションを行った。

薬事委員会

文責：薬事委員会 委員長　郷田治幸

委員会開催日：第４水曜日
（新型コロナウイルス感染対策のため回覧による開催を行なった。）
2022 年　6/1、8/24
2023 年　1/25

構成メンバー：医師 13 名、
薬剤師１名、
看護部３名（オブザーバー参加）、計 17 名

活動内容：医薬品適正使用について、具体的な方法の検討。
新規採用薬品・採用中止薬品の検討。
後発医薬品の導入推進。
特別採用薬を含む、在庫薬品の把握と運用。
副作用の発生報告と対処の検討。
その他、薬剤情報の伝達。

結果：

（１）　新規採用薬

1.先発品の新規採用

・チラーヂン S 錠 12.5μg（9.8 円/錠）
現在、甲状腺ホルモン製剤であるチラーヂン S 錠 50μg（9.8 円/錠）が本採用となっている。1/4 錠への対応として、チラーヂン S 錠 12.5μg（9.8 円/錠）の規格追加の検討を行い、新規本採用を決定した。

・リクシアナ OD 錠 15mg（224.7 円/錠）
現在、抗凝固薬（経口 FXa 阻害薬）であるリクシアナ OD 錠 60mg（416.8 円/錠）が本採用となっている。本剤 60mg 錠は楕円形であり、1/4 錠への対応として、リクシアナ OD 錠 15mg（224.7 円/錠）の規格追加の検討を行い、新規本採用を決定した。

・イグザレルト OD 錠 10mg（362.7 円/錠）、15mg（513.5 円/錠）
現在、抗凝固薬（経口 FXa 阻害薬）としてリクシアナ OD 錠 15mg（224.7 円/錠）、OD 錠 60mg（416.8 円/錠）、エリキュース錠 2.5mg（125.6 円/錠）、5mg（227.5 円/錠）が本採用となっている。イグザレルト OD 錠 10mg（362.7 円/錠）、15mg（513.5 円/錠）は１日１回服用の製剤である。OD 錠であり、嚥下障害のある患者にも服用しやすい製剤であり、新規本採用を決定した。

・バイアスピリン錠 100mg（5.7 円/錠）
現在、抗血小板薬であるバファリン配合錠 A81（5.7 円/錠）が本剤用となっている。本剤は吸湿性が高く、一包化での安定性が低い製剤であるが、ダイアルミネ

ートを含有しており、胃内での結晶化の防止と安定性が期待できる製剤となっている。一方、バイアスピリン錠 100mg（5.7 円/錠）は胃粘膜障害の軽減のため腸溶性コーティングを施した製剤となっている。また、一包化での安定性も高いが、粉砕後の安定性は低いことが知られており、経管投与は不適である。検討の結果、バイアスピリン錠 100mg（5.7 円/錠）の追加採用を決定した。

・エフィエント錠 3.75mg（268.5 円/錠）

現在、抗血小板薬（P2Y12 受容体阻害薬）であるクロピドグレル錠 25mg（16.9 円/錠）、75mg（45.7 円/錠）が本採用となっている。エフィエント錠 3.75mg（268.5 円/錠）はクロピドグレルよりも血小板凝集抑制作用の効果発現が早い薬剤となっている。検討の結果、CYP2C19 の遺伝子多型により、クロピドグレルでの治療に不応な場合の選択肢として、エフィエント錠 3.75mg（268.5 円/錠）の新規採用を決定した。

・タリージェ錠 5mg（100.4 円/錠）

現在、神経障害性疼痛治療薬であるプレガバリン OD 錠 25mg（27.6 円/錠）、OD 錠 75mg（28.9 円/錠）が本採用となっている。タリージェ錠 5mg（100.4 円/錠）は、プレガバリンに比べて効果はマイルドであるが、主な副作用である浮動性めまい、傾眠などが少ない製剤となっている。検討の結果、副作用によりプレガバリン継続ができない場合などの選択肢の一つとして、タリージェ錠 5mg（100.4 円/錠）の新規本採用を決定した。

・フィコンパ錠 2mg（195.8 円/錠）、ビムパット錠 50mg（217.9 円/錠）、100mg（355.6 円/錠）

新規抗てんかん薬であるフィコンパ錠 2mg（195.8 円/錠）、ビムパット錠 50mg（217.9 円/錠）、100mg（355.6 円/錠）は持参薬継続により、特別採用となる場合が多い。フィコンパは AMPA 型グルタミン酸受容体に対する選択的な拮抗薬であり、ビムパットは Na チャネルの緩徐な不活性化の促進を薬理作用とし、いずれも既存の薬とは異なる機序により抗てんかん作用を示す。検討の結果、フィコンパ錠 2mg（195.8 円/錠）、ビムパット錠 50mg（217.9 円/錠）、100mg（355.6 円/錠）の新規本採用を決定した。

・デノタスチュアブル配合錠（14.7 円/錠）

デノタスチュアブル配合錠（14.7 円/錠）は、カルシウム/天然型ビタミン D3/マグネシウム配合剤であり、ヒト型抗 RANKL モノクローナル抗体製剤であるデノスマブ（商品名：ランマーク皮下注、プラリア皮下注）使用時、重篤な低カルシウム血症の発現を軽減するために使用される。他院からの持参も多く、継続使用される。検討の結果、デノタスチュアブル配合錠（14.7 円/錠）の新規本採用を決定した。

・タリージェ錠 10mg（138.8 円/錠）

現在、神経障害性疼痛治療剤であるタリージェ 5mg（100.4 円/錠）が本採用となっている。用量依存性に効果増強が期待できる薬剤であり、5mg からの増量時に薬価が安くなる 10mg 錠の規格追加の要望があった。検討の結果、タリージェ錠 10mg（138.8 円/錠）の新規本採用を決定した。

2.後発品の新規採用

・ガランタミン OD 錠 8mg「サワイ」（43.6 円/錠）

現在、アルツハイマー型認知症治療薬であるガランタミンは、特別採用としての希望が多く、4mg、8mg、12mg の３規格製剤を在庫している。ガランタミンは AChE 阻害薬としての作用と、nAChR を賦活化する APL(allosteric potentiating ligand)作用を併せ持ち、ドネペジルで易怒性が見られた場合の代替え薬の候補となる。検討の結果、ガランタミン OD 錠 8mg「サワイ」（43.6 円/錠）の新規本採用を決定した。

・カルベジロール錠 10mg「トーワ」（12.2 円/錠）

現在、後発品のカルベジロール錠 2.5mg「トーワ」（10.1 円/錠）が本採用となっている。本剤は高用量での処方も多く、カルベジロール錠 10mg「トーワ」（12.2 円/錠）は、全ての効能効果をカバーし、服薬時の患者負担を軽減する。検討の結果、カルベジロール錠 10mg「トーワ」（12.2 円/錠）の新規本採用を決定した。

（２） 既存の採用薬の見直し

1. 先発品→後発品、後発品→後発品への切り替え

・フェブリク錠 20mg（49.5 円/錠）→フェブキソスタット OD 錠 20mg「サワイ」（13.9 円/錠）

現在、高尿酸血症治療薬であるフェブリク錠 20mg（49.5 円/錠）が本採用となっている。2022 年 6 月に後発品の販売が開始された。先発品は普通錠のみであるが、一部の後発品は OD 錠が販売されている。検討の結果、OD 錠であり、流通が安定しているフェブキソスタット OD 錠 20mg「サワイ」（13.9 円/錠）への採用変更を決定した。

・エルデカルシトールカプセル 0.75μg「サワイ」（25.6 円/カプセル）→エルデカルシトールカプセル 0.75μg「トーワ」（25.6 円/カプセル）

現在、骨粗鬆症治療剤(活性型ビタミン D3 製剤)であるエルデカルシトールカプセル 0.75μg「サワイ」（25.6 円/カプセル）が本採用となっている。2021 年 12 月に先発品と添加物まで同一のオーソライズドジェネリック製品であるエルデカルシトールカプセル 0.75μg「トーワ」（25.6 円/カプセル）が発売となった。昨今の流通面も考慮し、より安定供給可能なオーソライズドジェネリック製品であるエルデカルシトールカプセル 0.75μg「トーワ」（25.6 円/カプセル）への採用変更を決定した。

・ロゼレム錠 8mg（85.9 円/錠）→ラメルテオン錠 8mg「武田テバ」（27.9 円/錠）

現在、睡眠薬としてメラトニン受容体作動薬ロゼレム錠 8mg（85.9 円/錠）が本採用となっているが、オーソライズドジェネリックであるラメルテオン錠 8mg「武田テバ」１社のみの発売となっており、先発品と同一添加物製品で薬価も安くなる。検討の結果、オーソライズドジェネリック製品であるラメルテオン錠 8mg「武田テバ」（27.9 円/錠）へ採用変更を決定した。

・イーケプラ錠 250mg（92.3 円/錠）、イーケプラドライシロップ 50%（174.1 円/1g）→レベチラセタム錠 250mg「トーワ」（36.5 円/錠）、500mg「トーワ」（59.5 円/錠）、レベチラセタムドライシロップ 50%「トーワ」（87.1 円/1g）
現在、先発品であるイーケプラ錠 250mg（92.3 円/錠）、イーケプラドライシロップ 50%（174.1 円/1g）が本採用となっている。後発品が 13 社より販売されている。検討の結果、流通面に問題がなく、錠剤印字による識別性の高さ、ドライシロップ製剤で唯一分包品が販売されている点を考慮し、レベチラセタム錠 250mg「トーワ」（36.5 円/錠）、レベチラセタムドライシロップ 50%「トーワ」（87.1 円/1g）へ変更した。また、レベチラセタム錠 500mg「トーワ」（59.5 円/錠）500mg の規格追加採用も行なった。

・サムスカ OD 錠 7.5mg（1084.7 円/錠）→トルバプタン OD 錠 7.5mg「オーツカ」（491.6 円/錠）
現在、バゾプレシン V2 受容体拮抗剤であるサムスカ OD 錠 7.5mg（1084.7 円/錠）が本採用となっている。後発品が 4 社から販売されている。検討の結果、オーソライズドジェネリック製品であるトルバプタン OD 錠 7.5mg「オーツカ」（491.6 円/錠）への採用変更を決定した。

・ネキシウムカプセル 20mg（100.0 円/カプセル）→エソメプラゾールカプセル OD 錠 20mg「ニプロ」（46.6 円/カプセル）
現在、先発品であるネキシウムカプセル 20mg（100.0 円/カプセル）が本採用となっている。後発品が 8 社より販売されており、同一価格（46.6 円/カプセル）となっている。検討の結果、流通面、同一添加物であることを考慮し、オーソライズドジェネリック製品であるエソメプラゾールカプセル 20mg「ニプロ」（46.6 円/カプセル）への採用変更を決定した。

2. 規格変更

・リスペリドン内用液 1mg/1mL「トーワ」（36.2 円/mL）→リスペリドン内用液 0.5mg/0.5mL「トーワ」
現在、抗精神病剤であるリスペリドン内用液 1mg/1mL「トーワ」（36.2 円/mL）が本採用となっている。少量使用の可能性があり、同剤他規格製品であるリスペリドン内用液 0.5mg/0.5mL「トーワ」へ採用変更を決定した。

（3） 特別採用薬の在庫管理

特別採用の在庫表を毎月更新し、不動在庫となっている特別採用薬の使用を促した。

（4） まとめ

先発品 9 種、後発品 2 種が新たに採用となった。後発品への変更ないし後発品の見直しを 6 種行なった。規格変更を 1 種行なった。

給食委員会

文責：栄養課　八尋　玲

委員会開催日・開催頻度：第 2 木曜日　12：40～13：00

構成メンバー：

医局 1 名
看護部各病棟 1～2 名
リハビリ部（理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、各 1 名）
薬剤師 1 名
栄養課 5 名（病院管理栄養士 4 名・委託側支配人 1 名）

活動内容：

日頃の食事内容、食事提供について検討を行い、改善解決を図る。
また、新製品の栄養補助食品、経腸栄養剤などについて紹介及び検討を行う

経過・結果など：

・栄養補助食品等の見直し・検討。
・コロナウイルス発生時の対応の見直しを実施。
・食事内容、食形態の見直し・検討。
・検食簿意見について改善検討

摂食嚥下チーム　Eating and Swallowing Team（ＥＳＴ）

文責：医師　横山葉子

委員会開催日：毎月第３木曜日 12：40～（ZOOM 開催）
令和４年　4/21、6/16、8/19、
令和５年　2/16、3/16

構成メンバー：
医局６名、看護部９名、リハビリテーション部６名、栄養課１名
歯科衛生士１名、院外より歯科医師１名　　計 24 名

活動内容：
１）多職種協働による早期経口摂取再獲得の推進
（嚥下評価の迅速化・評価方法の統一・EST 回診の実施による）
２）摂食嚥下機能(食事動作含む)を向上させるために必要な物品・環境の整備
３）歯科/口腔ケア領域との連携

結果：
・EST 回診の実施・多職種協働のあり方の見直し
新型コロナウィルス感染の影響がなお続く一年ではあったが、EST 回診については、病棟間の意見交換や情報共有を行うという意義を重視し、十分な感染対策（スタッフは全員フェイスシールドを着用、直接介助者は感染状況に応じて手袋・ガウンも着用）のもとで原則として実施を継続した。当然ながら院内に感染者が生じた際には回診は中止となったが、状況を見極めた上でその都度再開されたことには、参加メンバーの熱意が感じられた。
・歯科診療との連携
入院患者全例を対象とした歯科医師・歯科衛生士による口腔内精査は継続中であり、患者およびスタッフの口腔環境に対する関心・理解を高めるのに役立っている。歯科衛生士の活動を通じた訪問歯科との連携により、義歯作成を含めた歯科治療も確実に行われている。また看護サイドで口腔ケアに苦慮する場合には歯科衛生士に相談し、適切なケアの方法の指導を受ける体制もできている。入院患者を対象とした歯磨き教室については、密を避ける観点から一旦休止しているが、病棟看護師からの強い要望により個別対応は継続中である。
・嚥下内視鏡検査の実施
令和４年度の実施件数は 16 件(前年度 23 件、前々年度 27 件)と減少しているが、これは新型コロナウィルス感染症の院内での拡大が影響したものと思われる。検査時の感染対策については、関連学会からの情報提供を参考に徹底した。当院での検査対象は脳血管障害による嚥下障害が中心であるが、摂食機能療法開始前評価としての嚥下内視鏡検査の要望も多いため、必要時に確実に実施できる検査体制を維持していきたい。

カルテ開示委員会

文責：医事課　課長　古賀昭臣

委員会開催日：随　時

今年度も前年度に引き続き新型コロナウイルス感染予防のため院長、主治医に確認の上、カルテ開示の準備を進めることとなった。

構成メンバー：

院長、医局５名、看護部２名、リハビリ部２名、管理部４名

計 14 名

活動内容：

カルテ開示の申込に対する開示範囲の決定

診療に関する情報提供を求める患者さんに適切に対応し、患者さんと医療従事者とのより強固な信頼関係の確保を図ることにより、良質な医療を提供する体制を構築することを目的とする。

実　績：

令和４年度のカルテ開示申込件数は８件であった。

開示先		ご本人・ご家族	裁判所・弁護士	警察
開示合計		5	3	0
内 開示内容	電子カルテ(印刷したもの)	5	3	0
	ＣＴ撮影画像	1	2	0
	一般撮影画像	1	3	0

（件）

倫理委員会

文責：管理部長　今村洋一

委員会開催日：年 2 回定例開催ほか書面開催
2022 年　4/7(定例・書面),10/6(定例・書面)

構成メンバー
委員　：院長、医局副院長、看護部副院長、リハ部副院長、診療部長
福祉部長、管理部長
予備委員：医局、看護部、リハ部、診療部、福祉部、管理部からそれぞれ１名
外部委員：倫理・法律面の有識者１名、市民の立場の人１名

活動内容：
当院の職員が行う人間(ヒト)を対象とする医学研究ならびに研究的医療行為に関し職員から申請された計画の内容を審査しその成果を公表する。

結果：
第 1 回
日 時：2022 年 4 月 7 日 書面開催
議 題：新規課題 3 題（内訳 リハ部 3 題)、承認事項の変更 2 題(リハ部)
新規 3 題、変更 2 題、すべて承認。

第 2 回
日時　：2022 年 10 月 6 日 書面開催
議題　：新規課題 3 題(内訳　リハ部 3 題)
新規 3 題、すべて承認。

以上

褥瘡対策委員会

文責：看護部　次長　吉村綾子

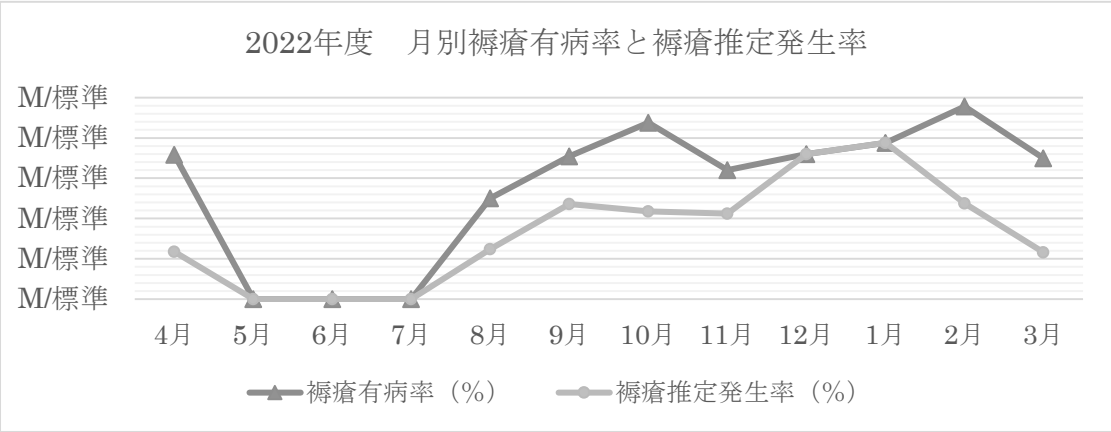
委員会開催日：第 4 木曜日，13:00～13:30
令和 4 年　4/28，5/26，6/23，8/25，9/22，10/27
令和 5 年　1/26，2/16，3/23

構成メンバー：
医局 1 名，看護部 10 名，薬局 1 名，リハ部 1 名，栄養課 1 名　　計 14 名

活動内容：
① 褥瘡発生時と，週に 1 回専任医師による回診，月に 1 回褥瘡対策委員による回診を実施し，早期治癒に向けて検討を行った。
② 重症患者の増加により既存の褥瘡マットが不足したため、ディンプルマットレス（ケープ）を 5 枚リース契約し採用した。

結果：
2022 年度の入院患者 726 名中，褥瘡有病者は 17 名で，褥瘡発生ヵ所数は 18 ヵ所であった。平均褥瘡有病率は 1.37%，平均褥瘡推定発生率は 0.83%，月別有病率と推定発生率は下図に示す。褥瘡有病者の平均年齢は 81 歳，男女比は男性 8 名，女性 9 名で，院内発生 10 名，院外発生 7 名であった。疾患別では脳出血・くも膜下出血 4 名，大腿骨骨折 4 名，脳梗塞 3 名の順に多かった。発生部位は仙骨部が最も多く，次に殿部，踵部・足趾部の順であった。深達度はⅠ度 6%，Ⅱ度 83%，Ⅲ度 11%であった。平均治癒日数は院内発生が 42.4 日，院外発生においては当院入院日からの平均治癒日数は 34.7 日であった。

今年度は，褥瘡発生数が院外より院内の方が上回り，平均治癒日数も院内発生褥瘡の方が遅延した結果であった。要因として褥瘡有病者の日常生活機能評価の平均値 11/19 点，FIM 平均値 44/126 点，BMI 平均値 19kg/㎡であり，重症患者の増加が考えられた。また，新型コロナウィルスのクラスターが 7～8 月と 12～1 月に発生したため，リハビリの中止やケアの不足も要因の一つとして考えられる。状況に応じてリスクを予想し対策を講じる必要がある。



図書管理委員会

文責：医師　横山　葉子

委員会開催日：第２週火曜日（3ヶ月毎）12：30～（本年度は回覧開催）

構成メンバー：

医局１名、看護部１名、リハビリテーション部２名、福祉部１名、管理部２名、診療部１名

合計８名

活動内容と結果：

・定期購読雑誌の見直し

各部署の規模に応じて定期購読雑誌の必要性を十分に吟味した上で購読を決定した。

・図書管理規程の確認

各部署間で賃借可能となっている定期購読雑誌（貸出期間 2週間。各部署の図書委員に申し出た上で貸出簿に記入）の賃借運用が問題無く行えている事を確認した。

・文献検索サービスの検討と更新・運用

平成25年10月1日より「Medical online」に変更となっている（ダウンロードの際は各部署の図書委員へ申請。サーバーの図書情報ホルダー内に新たに文献検索利用状況確認用のファイルを作成し、ダウンロード記録を各部署の図書委員が行う）。変更後、特に問題無く運用できている事を確認し、契約更新を行った。今後も利用を促していく。

広報委員会

文責： 人事課　課長　高見　愛

委員会開催日：第４金曜日、12:30～13:00　（Web にて実施）
　令和４年　　4/22、5/27、6/24、7/24、8/26、10/28
　令和５年　　2/24、3/3、3/24

構成メンバー：医局２名、看護部１名、リハビリ部１名、福祉部１名、
　　診療部２名、管理部３名
　　計 10 名

活動内容：
①年報作成
②ホームページの活性化
③病院パンフレット、入院案内作成

結果：
①令和３年度　年報作成
　令和３年度の活動内容・業績などを盛り込み作成。
　作成後、関連施設や近隣医療機関などへの配布を行った。

②ホームページの活性化に向けて
　採用活動や患者にとって重要な情報源となるホームページを通して、病院とし
　様々な情報発信を行っていくことを目的として、今後の活動方針の検討を行った。

③病院パンフレット、入院案内のリニューアル
　広報委員より何人か選任し、より分かりやすくなるよう内容の検討を開始した。

サービス向上委員会

文責：医事課　課長　古賀昭臣

委員会開催日：木曜日 9:00～(随時)
今年度も前年度に引き続き新型コロナウイルス感染予防のため、ZOOM にて開催

構成メンバー：
院長（委員長）、医局 2 名、看護部 2 名、リハビリ部 2 名、管理部 4 名
計 12 名

活動内容：
①ご意見箱への投書に対する掲示板を利用しての回答
②対応策の検討、決議、実施
→患者さんからの要望に対して他部署が連携して議論することにより、患者満足に対する意識の向上と、患者サービスの向上を図る。

実績：令和 4 年度の意見箱への投書数は 15 件であった。

	投書数	改　善	注意喚起 その他	計
4月	1	0	1	1
5月	1	0	1	1
6月	2	1	1	2
7月	1	0	1	1
8月	1	1	0	1
9月	1	0	1	1
10月	1	0	1	1
11月	1	0	1	1
12月	2	0	2	2
1月	0	0	0	0
2月	1	0	1	1
3月	3	0	3	3
合計	15	2	13	15

（件）

改善実績：
簡易の郵便ポストを設置
新棟トイレに手すりの設置
玄関に自由に使用できる傘を常備

輸血療法委員会

文責：医師　横山葉子

委員会開催日：偶数月の第３金曜日
　　令和４年　4/22、6/17、8/19、11/25、12/23
　　令和５年　2/17

構成メンバー：医局１名、検査課１名、薬局１名、看護部５名
計８名

活動内容：
当委員会では、当院における血液製剤の使用が、「安全な血液製剤の安定供給の確保　等に関する法律」の定めにしたがい安全かつ適正になされるよう、諸問題の調査・検討・審議を行っている。
具体的には、(1) 輸血療法の適応や血液製剤の適正使用に関する規定の作成、(2) 当院における各種血液製剤使用の統計に基づいた血液製剤適正使用の実施計画の作成、(3) 輸血用血液の検査項目・検査術式の選択と精度管理、(4) 輸血実施時の手続き・手順の策定を行い、これらについての問題点を定期的に検証し見直しを行っている。また、継続的に血液製剤の使用状況調査を実施している。さらに、血液製剤の不適正な使用事例が認められた場合には、主治医からのヒアリングも含め症例検討を行って、原因の特定・再発防止策の検討・関係者へのアドバイスを行い、輸血療法に伴う事故・副作用・合併症が発生した場合には、事故対策委員会などと緊密に連携し、事例の内容・発生要因・改善策などについて検討を行うことも当委員会の役割である。

結果：
令和４年度の院内での血液製剤使用は２件であり（「照射赤血球液-LR「日赤」」２単位：令和４年 12 月 19 日実施、「照射赤血球液-LR「日赤」」２単位：令和５年１月 27 日実施）、いずれも実施中および実施後に問題は生じなかった。
その他、日本赤十字社や福岡県赤十字血液センターからの通知事項を逐次確認し、輸血関連情報の更新と関係部署への周知徹底を図った。

Nutrition Support Team（ＮＳＴ）委員会

文責：栄養課　古屋　照代

委員会開催日：毎月第２木曜日、12：40～13：00（リモート会議）

回診：　毎月第２木曜日
NST 委員会にて実施（コロナの影響により未実施）

構成メンバー：
医局１名、看護部各病棟より 1～2 名、薬局１名、検査課１名、リハビリ部３名、栄養課４名

目的：
患者の栄養状態の評価、管理を行い、全ての患者さんが最もふさわしい栄養管理法を受けることで早期退院、社会復帰を助けること。また、QOL を向上させるため病院職員が一丸となって取り組むべき対策をより効果的・効率的に機能させるべく任に当たることを目的とする。

令和４年度活動状況：
対象患者を抽出し症例検討を行う。病棟内にて管理栄養士による栄養状態の報告・提案あり、常に栄養状態を把握し多職種と共有できていること、感染予防のため、昨年に続き本年度はコロナの影響により病棟回診は中止となる。

・看護師や管理栄養士による MNA（高齢者の栄養状態評価）実施。
スクリーニング値により、アセスメントに進み総合評価を算出。
・管理栄養士による入院時の栄養スクリーニングと定期的なモニタリング実施。
（BMI、MNA 評価結果、食事摂取状況、採血結果などを確認）
・検査課にてアルブミン 3.0g/dl 以下に該当する患者抽出。
（Alb、BUN、Cre、TC、ChE、CRP、WBC、Hb、総ﾘﾝﾊﾟ球数）
・NST 対象患者の状態、摂取量の把握、使用薬剤、今後の方針や方向性などについて報告及び検討し今後の栄養管理法や問題点について協議。

NST 介入基準
新入院患者：入院時の MNA スコア 7 ポイント以下、アルブミン 3.0g/dl 以下、褥瘡により NST 対象としている。
在院患者：アルブミン 3.0g/dl 以下で食事摂取量、体重減少、褥瘡の経過について検証を行い栄養評価にて NST 介入の有無を判断している。経鼻経管栄養より３食経口食に移行した方も対象としている。

共有フォルダに NST カンファレンスシートを作成し、主治医、看護、リハビリ

部、薬局、検査といった多職種で情報を共有。継続介入に関してはシートを月毎に作成している。

今後も栄養状態を定期的に評価し適切な栄養量、食形態、投与方法等を検討・管理し、栄養状態の改善に努めたい。

フットケア（Foot Care Team; FCT）委員会

文責：医師　江藤真弓

委員会開催日：毎月第４月曜日 13:00～

令和４年　4/25、5/23、6/27、9/26、10/24、11/28

令和５年　3/27

＊本年度も昨年度同様、院内で新型コロナウイルス感染者が確認された際と職員のコロナワクチン接種の際には委員会開催が中止となった。

構成メンバー：

医局１名（医局医師）、看護部５名、リハビリ部５名

計 11 名

活動内容：

1）足病変の早期発見とフットケアを行う。

2）靴のチェックを行う。

結果：

・入院患者の足病変のチェックとケア

コロナ禍以前は、フットケア指導士の資格を有する看護師が入院時に患者全員の足の観察を行い、足浴や保湿など必要なケアを病棟に指示していた。本年度は昨年度に引き続き、入院時のチェックを一旦中止、病棟スタッフによる観察をおこなったが、新型コロナウイルス感染拡大に起因する病棟の人員不足などにより十分に観察ができたとは言い難い状況であった。

・靴のチェックについて

入院患者の靴のサイズが足に合っておらず、胼胝や鶏眼ができ歩行を阻害しているケースがこれまでしばしばみられていた。足だけではなく靴のチェックも必要と考え、リハビリスタッフに靴のチェック項目を作成してもらい、周知を図った。

また、靴紐を結ぶことは難しいが通常のスニーカーを履きたいという若年の片麻痺患者の希望があり、片麻痺の方でも使用可能な靴紐について情報提供ができるよう検討していくこととした。

認知症ケアチーム(Dementia Care Team; DCT) 委員会（未）

文責：看護師　課長　川﨑　裕子

委員会開催日：第 3 週 木曜日 13：00～
　令和 3 年　6/17、9/16、12/16、
　令和 4 年　1/20、2/17
　本年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、ZOOM での開催とした。

構成メンバー：
　医局　1 名　看護部　10 名　リハビリテーション部　7 名
　計 18 名

活動内容と結果：
　高齢化社会の進行とともに、認知症の患者も増加している。入院による環境の変化もあいまって症状が悪化し、身体拘束や薬物加療による過鎮静により身体機能や認知機能が低下し、寝たきりの患者が増加することが懸念される。認知症ケアチームは認知機能の低下や、周辺症状の出現・悪化を予防するケアやリハビリテーションを提供し、寝たきりを防止することを目的として発足した。

　昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症対策のため、主となる各病棟での集団活動は中止されている。感染者の減少に伴い、再開するために必要な感染対策を感染対策委員長の石松副院長に相談し、感染対策を取った上での少人数での再開の計画を立て、1・5 病棟のみ 1 回だけではあるが再開し、集団活動の必要性を再確認した。感染者の増加に伴い再度中止となっている。今後も感染状況を見ながら早期の再開を検討したい。

　新型コロナウイルス感染症対策のため、院外、院内での勉強会等の開催が少ない状況のため、病棟で対応に困った症例について検討をおこない、家族との面会の中止が大きく影響していると考えた。
　家族との面会が中止され、タブレットを使用しての LINE 面会を各病棟で行っているが、認知症の方の中には、相手を認識することが難しく有効でない方もいた。帰宅願望が強く、興奮される方の面会方法について検討した。感染対策委員長の石松先生に相談し、喫茶室での窓越しでの面会を計画したが、家族側の安全の確保、介助者の人員確保の問題があり実施できなかった。LINE 面会の時間は短いため、6 病棟では、遅出の時間等を使い、時間をかけ LINE 面談を行ってみた。患者によっては落ち着く方、帰宅願望が増す方様々であった。
今後も感染の状況を見ながら、認知症の方の面会を行えるよう働きかけたい。

　ZOOM での開催の勉強会など情報収集を行い、スタッフへの参加を呼びかけていきたい。

排泄ケアチーム(Continence Support Team; CST)委員会

文責：医局　渡邊義将

委員会開催日：毎月第３木曜日 15:30～
2021 年　4/21、5/19、6/16、7/21、8/18、9/15、10/20、11/17
2022 年　2/15、3/15

構成メンバー：
医局１名、看護部 12 名（看護師 7 名、介護福祉士 5 名）、
リハビリテーション部２名（PT１名、OT１名）　計 15 名

活動内容：
1. 患者さんの自尊心を考慮した排泄ケアの実践
2. 退院後の生活を見据えた排泄ケアの計画立案・実践および患者・家族指導
   院内での排泄ケア向上のための助言・指導

結果：
（１）委員会活動等
昨年度から引き続き、新型コロナウイルスに対する院内感染対策方針に従い、今年度も Web にて委員会を開催した。夏期と冬期には、新型コロナウイルス感染のクラスターが複数の病棟で同時発生したため、一時的に事例検討の件数を減らしたり、委員会の開催を取りやめたりして（1 月度および 2 月度)、委員会スタッフの業務負担軽減を図る必要があった。
よって今年度は、活動範囲を縮小しながらも可能な範囲でできるだけ委員会活動を継続することを目標においた。26 例の患者において事例検討を実施し、標準化した患者アセスメントシートと排泄チェックシート を活用し、排泄パターンおよび基礎疾患・障害、内服薬、患者・家族の生活背景等についての考察に基づいたプランニングとケアを行った。その中で、退院後の生活へ繋げていく視点から介入を行う事例が増えてきており、移動・トイレ動作を含めた一連の排泄動作を細分化して分析的に評価するチェック表を用いて、患者・介護者のニードや負担の評価を客観的に行い、重点的に介入すべき点を絞り込んでいくことが定着してきた。
排尿障害の症例において、膀胱用超音波診断装置「リリアムα-200」を用いた残尿測定は各病棟でルーチンに行われている。患者間や測定者間のデータのばらつきは大きいため、適宜導尿も行いデータ解釈の一助とするよう指導も行っている。
（２）今後の課題
今年度も新型コロナウイルス感染対策のため、病棟をまたいで委員会メンバーが集まることが難しく、また委員会活動への参加自体が業務負担となる時期もあり、全体を通して委員会活動が低調となってしまった。その中でも排尿ケアへの取り組みは何とか維持継続できていたが、今後は排便ケアへの取り組み、そのための栄養管理の視点の導入など、総合的な排泄ケアへチームとして取り組んでいけるようにしたい。

編集後記

今年は、編集開始時が例年より遅くなり焦っている中、天気も大雨が続いて、気分が落ち込んでしまいました。改めて読み返すと、まだコロナ禍を感じる内容ですが、これも数年後にはいい思い出になればと願うばかりです。最後に、今年も無事に発行できることに感謝し、お礼を申し上げます。

広報委員会　年報編集担当　高見　愛

監　　修　　広報委員会

委員長　今村　洋一
委　員　渡邊　義将　上津原　珠美　飛永　浩一朗　金沢　由貴
飛永　学　添田　照二　高見　愛

誠愛リハビリテーション病院　令和４年度年報
発行日　令和５年　７月
発行所　特定医療法人社団三光会　誠愛リハビリテーション病院
福岡県大野城市南大利 2-7-2
TEL：092-595-1151　FAX：092-595-1199